



持続可能性レポート

Sustainability Report
2015

SARAYA

水といきものの未来へ

界面活性剤のサードウェーブ (詳細は p.16,19 を参照)



SOFOROは福島県の道路の除染作業にご利用いただいています。天然酵母が生み出す洗浄成分 SOFORO(ソホロピッド®)が、確かな洗浄力を発揮し、少しの水ですすげるので、除染にも採用されました。SOFOROは、RSPO認証パーム油を原料にして、酵母が発酵することにより生み出され、安全性も高く、使用後はすばやく、水と空気になって、また地球を循環します。(詳細p.16,19)

● SOFORO はハッピーエレファントに配合されています。



はじめに

本誌は、サラヤグループの持続可能な商品の開発、生物多様性の保全や世界の衛生に貢献するための本業と社会貢献両面からの取り組みなどを中心にまとめたものです。写真やグラフを多用し、CSRのご関係者以外の方々にも分かりやすく、興味を持ってお読みいただけるように工夫して制作しております。

ご意見・ご感想・ご要望などございましたら、<http://www.saraya.com/csr/report/> のアンケートフォームよりお寄せください。

編集方針

ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」[GRI サステナビリティ リポーティング ガイドライン Version4.0 日本語版]を参考に内容を構成しております。

対象期間

データの集計期間は、当社の決算期である2013年11月から2014年10月としていますが、海外拠点など2014年1~12月の集計データも含まれています。報告の活動内容は2013年11月から2014年10月としておりますが、それ以前や以降の内容、写真が含まれています。

集計対象事業所

- ・国内は以下の全事業所を対象
サラヤ株式会社
東京サラヤ株式会社
スマイル産業株式会社
- ・海外は以下を対象としております。
Saraya MFG. (Thailand) Co., Ltd
Saraya (Dongguan) Hygiene Products Co., Ltd.

発行履歴

2002年7月、発行開始より年1回発行。
次号発行は2016年秋を予定しております。

インターネットでの公開

サラヤホームページ上にも持続可能性レポートのPDFデータを公開しております。
<http://www.saraya.com/csr/report/>

もくじ

1. トップ・コミットメント—SDGs に向かって	2
2. 生物多様性	6
2-1. 生物多様性条約第12回締約国会議	6
2-2. 持続可能な原料調達	8
2-3. 持続可能なパーム油について現地では	10
2-4. 原料供給地の生物多様性保全	11
2-5. 創業者と生物多様性	12
2-6. 二代目社長と生物多様性	13
3. 温室効果ガスの排出(スコープ3)	14
4. 化学物質	15
4-1. サラヤが家庭用の洗剤にLASを配合しない理由	15
4-2. 界面活性剤のサードウェーブ	16
4-3. カーボン・バランス	17
5. 商品開発	18
5-1. 自然派の商品開発	18
持続可能な商品を追い求めて	19
5-2. ご家庭用のコース・ブランドと商品関連受賞	20
5-3. 嚙下補助食品とコールドチェーン	21
6. 人権への取組	22
6-1. BOPインクルージブ・ビジネス	22
6-2. カンボジアでのBOPビジネス連携促進	23
6-3. ウガンダ医療衛生向上のためのプロジェクト	24
ウガンダ最初の衛生インストラクターより	25
7. 環境パフォーマンス	26
7-1. 環境マネジメントシステム	26
環境目標	27
7-2. 2014年度の実績	28
7-3. サイトレポート	30
7-4. 環境教育	32
7-5. 環境管理責任者より	33
8. ステークホルダーとサラヤ	34
8-1. サプライヤーとサラヤ(グリーン購入)	35
8-2. お客様とサラヤ(品質保障と顧客満足)	35
8-3. 非営利団体とサラヤ	36
8-4. ミラノ国際博覧会とサラヤ	37
8-5. 従業員とサラヤ	38
8-6. 環境・CSRコミュニケーション	42
サラヤグループの会社概要	44

トップコミットメント

持続可能性への挑戦は、ビジネスを通して市民や各種団体と協力しながら解決を図るべきだと確信しています。そのために創造力を発揮し、イノベーションを実践し、新たなネットワークを構築することが、今求められています。

1. トップコミットメント — SDGsに向かって

1. 持続可能な地球とビジネス、サラヤの基本的スタンス

21世紀になり、人類にとって、地球の持続可能性へのレッドライトが点滅しています。市民の生活やそれを支えるビジネスは、地球の資源を活用することにより成り立っていますが、人口の増大、資源の枯渇、地球温暖化、生物種の減少など、それぞれの問題が、エコロジカルにリンクし、関連しながら、ビジネスに対しても大きなマイナス影響を与えるようになりました。

しかし、これらはビジネス活動を否定するものではありません。これらの問題解決や持続可能性への対応は、ビジネスを通して、また市民や各種団体と協力しながら解決を図るべきだと確信をしています。そのための、創造力の発揮、イノベーションの実践、そして新たなネットワークの構築が、今こそ求められています。

サラヤは、1992年のリオサミットの宣言、2000年のMDGs(ミレニアム開発目標)の採択以来、ビジネスにおいてこのような地球的かつ地域的問題への解決に向けて、微力ながら対応ができないか模索し、チャレンジを行い、実践してきました。2015年9月に採択される、SDGs(持続可能な開発目標)に対しても、ビジネスを通じて提案し、対応し、実践を図っていききたいと思います。その前にまず、いくつかの事業におけるサラヤのMDGsの総括を試みたいと思います。

MDGs(Millennium Development Goals) ミレニアム開発目標

<p> Goal 1: 極度の貧困と飢餓の撲滅</p> <p> Goal 2: 初等教育の完全普及の達成</p> <p> Goal 3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上</p> <p> Goal 4: 乳幼児死亡率の削減</p>	<p> Goal 5: 妊産婦の健康の改善</p> <p> Goal 6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止</p> <p> Goal 7: 環境の持続可能性の確保</p> <p> Goal 8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進</p>
--	---

2. MDGsの総括(ボルネオにおける生物多様性の保全活動、今後の構想)

2005年から、RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に参加し、2010年からはRSPO認証油を活用した商品づくりに取り組んでいます。しかし、持続可能な原料調達だけでは生物多様性の保全は不十分と考え、2006年の9月に、ボルネオ保全トラスト(本部、マレーシア サバ州)の設立に協力し、運営のためにヤシノミ洗剤の売り上げの1%で支援してきました。また2007年にはボルネオ保全トラスト・ジャパンの設立にも協力しました。両団体とも、ボルネオの熱帯雨林やゾウ、オランウータンをはじめとする生物多様性の保全に大きく寄与しています。2013年には、BES(ボルネオ・エレファント・サンクチュアリ)のレスキューセンターが竣工、2015年から救出活動がはじまりました。これらの活動にはサラヤばかりでなく、多くの企業や団体、個人も関わって支援されています。

またサラヤでは、市民に対する理解の促進が重要と考え、「ボルネオはあなたが守るキャンペーン」などを通じて消費者の方々に、消費される商品と熱帯雨林のつながりを考えていただき、生物多様性の理解を深めていただく努力を続けています。また2007年には消費者の代表に実際にボルネオに訪問していただく、「ボルネオ調査隊」を開始し、現在まで続けています。このように、10年を超えて、活動を継続できたのは消費者の皆様やお客様にご支持をいただいているからで、これからも皆様と共に、活動を発展させていきたいと思っております。

またサラヤの関連会社の、株式会社 関西再資源ネットワークでは、パーム農園から生まれる多くのバイオマスが未だに廃棄され、再利用されていないことを考え、これをバイオマスを発電事業に応用できないか、現在調査中であり、2016年事業化を目指して取り組んでいます。



Photos by Kentaro Taketani(SARAYA)



3. ウガンダ・東アフリカにおける手指消毒普及事業

MDGsでは、「乳幼児死亡率の削減」、「妊産婦の健康の改善」が開発目標に挙げられました。サラヤでは2010年から、ユニセフと協力して、ウガンダの手洗い啓発事業に取り組みました。当時ウガンダでは、乳幼児死亡率が高く、また妊婦の出産時の感染なども多発していました。一般の疾病予防に、手洗いが重要なことは言うまでもありませんが、これらの問題解決にも、手指の衛生は大きな役割を果たします。

ユニセフを通じた啓発事業だけでは、普及に限界があり、ビジネスを通じて問題解決に貢献できないかを考え、2011年には、サラヤ・イーストアフリカを設立し、2014年2月には小規模ながらアルコール手指消毒剤の現地生産を始めました。現地は、病院であっても水が汚染されている場合が多く、アルコール手指消毒剤がもっとも感染予防に貢献することがわかりました。更に、産科病棟での徹底した使用により、帝王切開後の妊産婦の敗血症、小児科病棟の出血性下痢が激減しました。村々のマタニティセンターでも、出産時の手指消毒が、出産時の感染症を減らすもっとも簡便で重要な手段と考え、その普及をはかっています。

ウガンダでは、まだまだ予算や消費レベルが低く、生産施設を有効に運用し固定費を賄うためには、複合型生産による施設活用が必要です。ウガンダの生産では、これからも模索を続けながら、持続可能な運用にたどりつき、現地の衛生向上に貢献したいと思っています。



サラヤ・イーストアフリカがジンジャに設立した工場



ゴンベ病院で手指消毒するナース



ゴンベ病院で

持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) の提案 (文部科学省 日本ユネスコ国内委員会 仮訳)

- | | |
|---|--|
| Goal 1. 全ての場所における、あらゆる形態の貧困の解消 | Goal 10. 国内及び国家間の不平等の縮減 |
| Goal 2. 飢餓の解消、食糧安全保障と栄養の向上の達成、持続可能な農業の促進 | Goal 11. 都市及び集落を包括的、安全、レジリエント(復元力があり)、持続可能なものとする |
| Goal 3. あらゆる年齢の全ての人々に対する健康な生活の確保、福祉の促進 | Goal 12. 持続可能な消費及び生産様式の確保 |
| Goal 4. 全ての人々に対する包括的かつ公正で質の高い教育の確保、生涯学習の機会増進 | Goal 13. 気候変動及びその影響に対処するための緊急な行動*
(*気候変動に関する国際連合枠組条約が、気候変動への国際的対応を協議する国際的、政府間の協議における主要なフォーラムである。) |
| Goal 5. ジェンダー平等の達成、全ての女性および少女への権限と能力の付与 | Goal 14. 持続可能な開発のための海洋、海辺及び海洋資源の保護と持続的な利用 |
| Goal 6. 全ての人々に対する、水とその持続可能な管理並びに衛生の確保 | Goal 15. 陸上生態系の保護、復元及び持続可能な利用の促進森林の持続的な管理、砂漠化への対応、土壌劣化の停止と回復、生物多様性の損失の停止 |
| Goal 7. 全ての人々に対する、手頃で信頼できる、持続可能な近代的エネルギーへのアクセスの確保 | Goal 16. 持続可能な開発のための平和と包括的な社会の促進、全ての人々に対する正義へのアクセスの提供、あらゆるレベルで効果的な責任あるを包括的制度的設立 |
| Goal 8. 継続的、包括的で持続可能な経済成長の促進、全ての人々に対する十分で生産的な雇用と適切な仕事の確保 | Goal 17. 持続可能な開発のための実施手段の強化、国際協力の再興 |
| Goal 9. レジリエントな(強固。回復力のある)インフラの構築、包括的で持続可能な産業の促進、イノベーションの推進 | |

SDGs(持続可能な開発目標)は、2012年6月に開催された持続可能な開発会議(リオ+20)の成果文書“The Future We Want”で策定されることが定められた。一方、2015年に期限を終えるMDGs(ミレニアム開発目標)は、サハラ以南と南アジアでの教育・母子保健・衛生については達成困難とされながら、ポストMDGsの策定が議論されていた。このポストMDGsがSDGsに組み込まれるかたちで、2015年9月の国連サミットで採択され、2016年からSDGsがスタートする。

4. SDGsに向かって



コールドチェーン・システムのためのラピッドフリーザー (p.21 に詳細)

MDGsの15年間に、新興国や発展途上国の台頭もあり、依然問題はあるものの、極度の貧困や飢餓は大きく改善されました。これから発展途上国においても問題になるのは、資源の持続可能で有効な活用、廃棄物の再利用やエネルギー利用などです。サラヤでは、Goal2(飢餓の解消、栄養の向上)や、Goal15(生物多様性の損失の停止)の達成に向けて、ボルネオやウガンダの活動は継続いたします。

更に、Goal1(貧困の解消)、Goal2(飢餓の解消、栄養の向上)、Goal8(BOP層の経済成長)、Goal12(持続可能な消費)、Goal14(海洋資源の保護)などの達成に向けて、ことに地元農民や漁民の増収をはかり、地元資源を有効に、また有用に活用すべく、衛生的な環境で食品をつくり、流通できるように、途上国におけるコールドチェーンの開発を目指します (p.21 に詳細)。

5. 他団体との連携

SDGsへの対応や達成への努力は、一企業のみでは取り組みません。いろいろな団体と連携しながら達成を図りたいと思います。以下の団体の目的や原則を支持し、その活動へのコミットメントについて継続して対応していきたいと思っています。

サラヤ株式会社 代表取締役社長
東京サラヤ株式会社 代表取締役会長

更家 悠介



左より更家とカロリン・ボスマイヤー氏('Biodiversity in Good Company'ディレクター)



更家(左端)とWHO First Global Patient Safety Challengeのリードディレクターディディエール・ピッテ教授(右端)、ウガンダにて

これら団体を支持し、支援しています





Photo courtesy of CBD

サラヤは、サプライチェーン全体での生物多様性保全に取り組んでいます。

2.生物多様性



パネリストとモデレーター (写真上・左とも) 左より、David Oswald 氏 (President, De Design and Environment)、Annabelle Prin-Cojan 氏 (Responsable du polé Environment, Entreprises pour l'Environment)、Jose Koechlin 氏 (Chairman and CEO, Inkaterra モデレータ)、更家悠介 (サラヤ社長)

2-1. 生物多様性条約第12回締約国会議

ビジネスと生物多様性フォーラムでの発表

国連生物多様性条約第12回締約国会議 (UN CBD COP12: The 12th Meeting of the Conference of the Parties to the Convention on Biological Diversity) は、2014年10月6～17日に韓国で開催されました。その中で12～14日の3日にわたって、生物多様性条約事務局が韓国政府とドイツ政府の協力のもとに平行・イベントとして開催したのが「ビジネスと生物多様性フォーラム」です。ここで行われた協議は、本会議の採択案にも影響力を持ちます。

サラヤが発表の機会を得たのは、同フォーラム2日目、13日13時45分から1時間のパネル・セッション3 (Introductory Panel) で、「Capacity Building and Cooperation」をテーマにモデレーターによる基調講演と3名のパネリストによる発表とパネル・セッションが行われました。更家悠介 (サラヤ社長) がパネリストのひとりとして登壇し、サラヤのボルネオでの生物多様性保全の活動を中心にプレゼンテーションを行いました。

サイドイベントの開催

ハイデラバード開催のCOP11に続いて、COP12でもサイドイベント開催の機会を得ました。同日13日の18時15分からの開始で90分、「Realizing the Borneo Elephant Sanctuary」として、ボルネオエレファントサンクチュアリーのリスキューセンター建設を中心テーマにサイドイベントを開催しました。

更家悠介による基調講演ではサラヤの活動や第1期工事までの経緯について、青木崇史氏 (ボルネオ保全トラスト事

務局長) からはBCTジャパンによる追加工事について、また地元住民の立場からRosli Jukrana氏 (Kopel Ltd. 統括部長) がボルネオエレファントサンクチュアリーに期待することなどを報告し、上記3名にカロリン・ボスマイヤー氏 ('Biodiversity in Good Company' Initiative ディレクター) が加わり、パネルディスカッションを行いました。このサイドイベントの動画は、下記サイトでご覧いただけます。

- ▼Saraya Co., Ltd. held a side-event on UN CBD COP12 in Pyeongchang (1/4-4/4) - YouTube:
<https://www.youtube.com/watch?v=tkhHO7mlKbk>
<https://www.youtube.com/watch?v=YHjMnMvCoiU>
<https://www.youtube.com/watch?v=9yPDzHoAi64>
<https://www.youtube.com/watch?v=IjAx2-clKC8>



サラヤ開催のサイドイベント会場



左より更家悠介、青木崇史氏、ロズリー・ジャクラナ氏、カロリン・ボスマイヤー氏

平昌COP12に参加して — 韓国でもサラヤの企業価値実現のための第一歩を

2014年9月29日～10月17日にMOP7(カルタヘナ議定書第7回締約国会議)とCBD-COP12が江原道の平昌で開催されました。CBD-COP12にはサラヤ株式会社の韓国拠点のサラヤ코리아から5名が参加いたしました。私達は、韓国の食品衛生・ヘルスケア・公衆衛生・コンシューマー分野でソウルを拠点に、「衛生・環境・健康」の向上に貢献する商品とサービスを提供させていただいております。13～14日、サラヤ関連の2つのイベントに参加し、サラヤ主催のサイドイベントではサポートもさせていただきました。

韓国国内のCBD(生物多様性条約会議)についての認知度は低く、10人中7人までに全く知見がなく、サラヤ코리아のスタッフのほとんども、COP12の参加でようやく知りました。しかし、科学者たちは動植物の種の絶滅がこのまま続くと、50年後は地球上の動植物の1/4が消えてしまうと予想しており、CBDの154番目の加盟国の韓国もその危機的状況を認識し、平昌でのCOP12の開催をきっかけとして、韓国も今後は生物多様性保全に積極的に寄与すべきだと思っています。

我々にとっては、サラヤのサイドイベントが特に印象深く、企業とNPOとの共同作業で推進したBorneo Elephant Sanctuaryについて、計画段階から建設過程、追加工事や未来プランなどの活動全般について理解できる有益なイベントだったと思えました。なお、このような活動を顧客の参加と広報活動に結び付け、またビジネスの利益創出に導き出す更家社長の企業人としての姿勢から、サラヤ

の追い求めている企業価値やブランドイメージを再認識しました。

Borneo Elephant Sanctuaryの広報やボルネオ視察ツアーまで主催する本社の環境コミュニケーションに触れて、この企業理念と一緒に共有し、外部協力者と協働していることに深い感銘を受けました。資源の枯渇と環境の破壊は、結局それを利用している人間に致命的なリスクとして戻ってくるという認識の下で、その解決方法を一緒に探ろうという国際的協調も知り、とても有意義な体験でした。

生物多様性の変化は人類の生存と健康にも直間接影響があるので、最近では生物資源が石油やガスのように重要な産業資源として注目を浴びています。サラヤ코리아もCOP12の参加をきっかけとして生物多様性の保全に大きな関心を持ち、本社の追い求めている企業価値実現のために韓国での第一歩を踏み出しました。マハトマ・ガンジーの言葉を引用して、このコラムを終わります。

国の偉大さと道徳的発展は、その国内の動物の扱い方で判る
 "The greatness of a nation and its moral progress can be judged by the way its animals are treated."



Saraya Korea Co., Ltd. 代表理事 金興榮 (Heung Young, Kim)



COP12参加メンバー 左側より、Yong Kim, Seon Mi Park, Min Seok Jung, Heung Young Kim (筆者)、Young-Su Yang



ビジネスと生物多様性イニシアティブ

2008年のボン開催の生物多様性条約第9回締約国会議 (CBD COP9) の閣僚級会合でビジネスと生物多様性イニシアティブ 'Biodiversity in Good Company' Initiative (BiGC) をドイツ政府が立ち上げました。サラヤは創立メンバーとしてボンでこのリーダーシップ宣言に署名し、今なお活動を継続しています。このBiGCは、生物多様性条約会議 (CBD) の右の3つの目標を共有しています。

BiGCとCBD共通の目的

1. 生物多様性の保全
2. 生物多様性の構成要素の持続可能な利用
3. 遺伝資源から生じる利益の公平・衡平な分配

▼ホームページ <http://www.business-and-biodiversity.de/jp/>

▼リーダーシップ宣言サラヤの取組状況の詳細 (英文)
http://www.business-and-biodiversity.de/fileadmin/user_upload/documents/Die_Initiative/Fortschrittsbericht/Saraya_Progress_Report_2013_2014.pdf

ビジネスと生物多様性イニシアティブ リーダーシップ宣言の実施状況

リーダーシップ宣言	取り組み状況	記載頁
1. 企業活動が生物多様性に与える影響について分析を行う	サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量 (SCOPE3)、化学物質放出量を把握。サプライチェーン上流の生物多様性に与える影響の研究調査を支援。	8-17
2. 企業の環境管理システムに生物多様性の保全を組み込み、生物多様性指標を作成する	2004年よりEMS(環境マネジメントシステム)「環境方針」に追加。2010年より環境目標を定め、活動。生物多様性指標は作成準備。	26-27
3. 生物多様性部門のすべての活動の指揮を執り、役員会に報告を行う担当者を企業内で指名する	担当者を指名。「百聞は一見にしかず」、役員を原料供給地ボルネオ サバ州に派遣し、現地で生物多様性への影響についての研修(2回)を実施。	
4. 2～3年毎にモニターし、調整できるような現実的かつ測定可能な目標を設定する	原料調達、商品開発において実施。	9-10
5. 年次報告書、環境報告書、CSR報告書にて、生物多様性部門におけるすべての活動と成果を公表する	当持続可能性レポート及びWEBサイト、PDF、電子ブックなどで公表。毎年秋発行・更新。	42
6. 生物多様性に関する目標を納入業者に通知し、納入業者の活動を企業の目標に合うように統合してゆく	RSPOで「緑の回廊計画」を提案。主要納入業者の現地研修を実施した。RSPOに委託企業3社が加盟。RSPO加盟の納入業者は13社。(2015年5月現在)	
7. 対話を深め、生物多様性部門の管理システムを引き続き改善してゆくために、科学機関やNGOとの協力を検討する	関連の国際会議や学会に参加、シンポジウム主催。BCTをはじめとする環境関連のNGO・NPOを支援、野生生物保護活動に参加・協力。	6-7 42-43

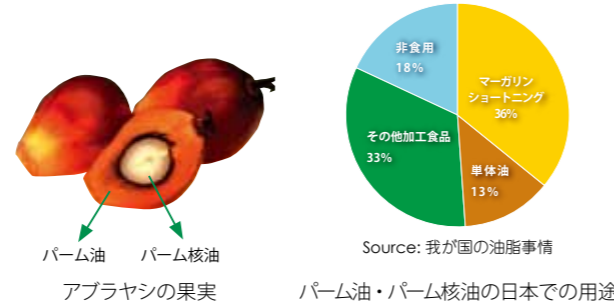
主要原料作物のアブラヤシ農園はボルネオ島の熱帯雨林が伐採されて拡大し、ボルネオの生物多様性減少の原因となっています。サラヤは持続可能な原料調達や生物多様性保全のためにNGOなどと協働しています。

2-2. 持続可能な原料調達

アブラヤシから採れる油脂

パーム油は、アブラヤシの果肉を搾油し、精製したもので、種子からはパーム核油が取れます。2013年には、パーム油の世界生産量が5,621万tで、2位の4,273万tの大豆油を大きく引き離しています。

生産地はインドネシアとマレーシアが2大生産地で90%を占めています。最大の特徴は、1ha当りの生産量が4.14t/ha、他の植物油の1t/ha以下と比較して突出しています。パーム油・パーム核油は、日本に約71万tが輸入されており、その用途は右の円グラフの通り食用が82%となっています。



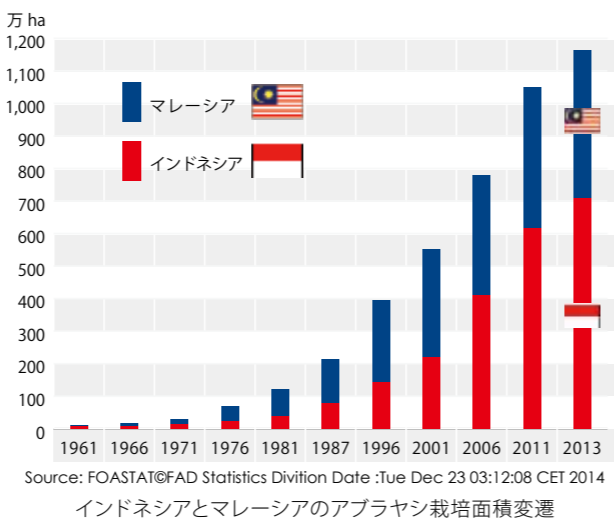
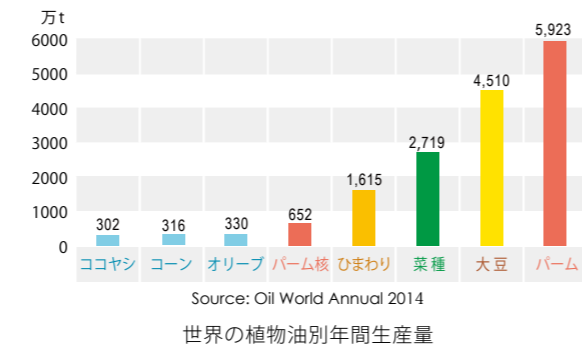
熱帯雨林の減少

1960年時点では、わずか4~5万haだったマレーシアのアブラヤシ農園は、石油からゴム製品が作られるようになったこともあり、1980年頃から、マレーシアの国策で天然ゴムからアブラヤシへの転作が急激に進められました。さらに追い打ちをかけるように、熱帯雨林から南洋材と言われるフタバガキの木が伐採され、コンクリート・パネルに加工され、主に日本で利用されています。伐採後にはアブラヤシが植えられ、アブラヤシ農園が急拡大しました。マレーシアとインドネシアの両国でパーム油の90%が生産されています。

この熱帯雨林の減少から、ボルネオゾウやオランウータンをはじめとする絶滅危惧種を含む熱帯雨林の生物多様性が危機に瀕しています。熱帯雨林の薄い土壌に70mの樹木が生茂しているのが、ボルネオの熱帯雨林の特徴ですが、これは多種多様な植物が混在し、地中で根をからませて土壌を保持しているから成り立つことです。1ha当たりに同種類の木が1~2本であったという報告もある程、多種多様な植物群で構成されています。一本一本には、イチジクやランなどの着生植物が付き、またそれぞれの着生植物に固有な昆虫が棲み、森全体で様々な動植物が混然一体となって、絶妙なバランスで共存しています。

熱帯雨林は、土壌流出を防ぐことで、沿岸のサンゴ礁を守り、海に栄養分を分け与えています。アブラヤシ農園のためにも害虫・害獣を捕食する天敵を育み、過剰な農薬使用を防ぎ、土壌を豊かにしています。地球規模では、熱帯雨林はCO₂を吸収し、地球を冷やし、水を循環させ適度な雨を大地に降らせ、気候を安定させます。

アブラヤシの果房。この果房の単収率は1ha当り15.7t、大豆の6倍以上(2.5t)である。油の含有率はアブラヤシと大豆は20%代とされている。



生物多様性

持続可能なパーム油の使用

RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)は、スイスに本拠を置き、パーム油事業者で構成された機関です。WWF(世界自然保護基金)やMPOC(マレーシアパーム油協会)を含む7つの関係団体が中心となり、2004年4月にNGOとして設立されました。その目的は、パーム油の生産が熱帯雨林やそこに棲息する生物の多様性、森林に依存する人々の生活に深刻な悪影響を及ぼすことのないようにすることです。

サラヤは設立年の2004年に申請し、翌年2005年に受理されました。2010年10月にはRSPO SCCS(Supply Chain Certification Systems)のセグリゲーション(完全分離方式)を認証取得し、ソホロリピッド®(SOFORO)の発酵に利用するパーム油についてはRSPO認証油を100%使用しています。

2012年4月から2013年10月まで、国内で自社生産されるパーム油・パーム核油(誘導体原料含む)を使用するすべての製品について、自社生産で使用するパーム油・パーム核油をすべてRSPO認証(セグリゲーションRSPO認証またはGreenPalm認証)の原料を使用していました。

現在までRSPO認証パーム油(CSPO: Certified Sustainable Palm Oil)は安定した価格で出荷され、出荷量も増えていきます。一方、化粧品・石けん洗剤製造に使用されることの多いRSPO認証パーム核油(以下CSPKO: Certified Sustainable Palm Kernel Oil)の認証システムの確立が遅れていて、未だに出荷されていません。RSPO認証農園でパーム油搾油後に残る「種子=Karnel」は認証原料としてあるのですが、搾油工程以降が未整備で、最終的にCSPKOが市場に出されていません。

現状のパーム核油についてのGreenPalm認証は、この認証種子の出荷量から換算して、クレジットが発行されています。CSPKOがないことで、GreenPalm認証クレジットの相場が高騰し、2014年時点では2012年比で約10倍にもなる異常な高価で取引されています。

2013年11月からのGreenPalm認証について

このような現状から、サラヤはGreenPalm認証クレジットの購入方針を見直しました。高価なGreenPalm認証よりむしろ、その分でサバ州での保全活動を支援する方が効果的であると考えられます。とは言え、商品にマークを付けることで、エシカル・コンシューマリズム®の啓発効果も考慮し、2013年11月よりコンシューマー(ご家庭用)商品分のみクレジット購入を継続して、GreenPalm認証マークを付与しています。

手にする商品にこのマークがあることで、消費者にエシカルな消費行動を喚起することができることを期待しています。2020年を目標として、全ての自社製品にRSPO認証原料を使用することを目標としています。

※ 倫理的に「正しい」商品やサービスを選択しようという運動

持続可能なパーム油の原則 Roundtable on Sustainable Palm Oil

- 原則1. 透明性へのコミットメント
- 原則2. 適用法令と規則の順守
- 原則3. 長期的な経済的・財務的な実行可能性へのコミットメント
- 原則4. 栽培者及び製造・加工業者によるベスト・プラクティスの活用
- 原則5. 環境に関する責任と資源及び生物多様性の保全
- 原則6. 栽培者や製造・加工工場によって影響を受ける従業員及び個人やコミュニティに関する責任ある配慮
- 原則7. 新規プランテーションの責任ある開発
- 原則8. 主要な活動分野における継続的な改善へのコミットメント

RSPO 認証の種類

分離方式 Segregation

RSPO-1106041

アブラヤシ栽培から加工、流通などすべての工程で、他の非認証油と混合されることなく管理されています。栽培から加工、流通まで環境や労働者への配慮が適切に行われて生産されていることがRSPOによって認証された原料です。ソホロリピッド®が配合されている写真のハッピーエレファントシリーズ商品には、このマークが付いています。

GreenPalm 認証 (台帳方式 Book & Claim)

生産された数量の認証油を証券化したもの。サラヤは該当商品のパーム核油の原料使用量の証券を購入しています。通常のパーム核油由来の原料と同じですが、RSPO認証油の生産者には使用分の金銭的な還元がなされるので、持続可能なパーム油の生産や流通に貢献することができます。GreenPalm認証パーム油も使用しています。

アブラヤシの生産国のインドネシアとマレーシアで、政府主導の持続可能なパーム油の認証制度がはじめられています。

2-3. 持続可能なパーム油について現地では

RSPOに残された課題

欧米や日本は、概ねマレーシアからパーム油を輸入しています。RSPOは本部がスイスにあり、運営が環境団体寄りであると生産者側には捉えられています。原則と基準が細かく規定されていて完成度が高くても、実際の監査機能には疑問が残ると指摘されています。

マレーシアのクアラランプールにはRSPOの事務局があります。一方、国内の40%の農園がRSPOメンバーであるインドネシアには、ジャカルタに事務所があるだけです。Annual Communication of Progressの事務局への提出が義務付けされていますが、単にコピーを毎年送っているだけという情報もあります*。約4割が未提出であることも長年の課題であるようです。RSPOはようやく3年間未提出の会員を除名することを発表しました。

農園には、搾油所を持つ企業の自社農園の他に、外部の契約農園や独立農園といった小規模農園があります。搾油所には小規模農園のアブラヤシも集められますが、小規模農園は経済的理由や知識の不足から認証取得が困難なことが多く、農業の使用法や収量の改善など栽培方法に課題があることも少なくありません。

近年、多くの企業やNGOが小規模農園に対し認証取得の支援を行っています。RSPOでも「小規模農園支援基金(RSPO Smallholder Support Fund)」を立ち上げ支援を開始しました。小規模農園やそのグループでの認証取得者もようやく現れてきました。

インドネシアでの動き

パーム油・パーム核油の世界の半分を生産するインドネシアでは、2011年10月にインドネシアパーム油協会がRSPOから脱退しており、同時にこれに代わるものとして、政府がISPO(Indonesia Sustainable Palm Oil)を制定しました。これは、RSPOに比べて緩い最低限の基準ではありますが、罰則条項もあり、政府主導で監査も行われます。

また、2015年2月にインドネシアは、国連開発計画(UNDP)の支援を受け、国内パーム油生産の約40%を担う小規模農園向けに、ISPO制度を活用する認証ガイドラインを試験的に導入するプロセスに着手しました。スマトラ島リアウ州で6つのパーム油協同組合を対象に行われています。

遠隔地で、ほとんど規制当局による監督もないことが多い小規模農園(耕地面積25ha以下)はしばしば、農業に関するノウハウを欠いているため、大規模農園よりも生産性が低く、アブラヤシを栽培するために樹木を伐採し、有害な化学物質を使用するなど、環境にも労働者にも害が大きい生産を余儀

ISPOの規則

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 農園ライセンスと管理 | 4. 労働者福祉の監視 |
| 2. 栽培技術とパーム果実加工の適用 | 5. 社会と地域に関する責任 |
| 3. 環境監視と管理 | 6. 地域社会の強化 |
| | 7. 持続的事業の推進 |

なくされています。こうした農家は、グローバルな流通機会から外されているので、金融面でも技術面でも置き去りにされています。こんな状況にある中、ISPOによって奥地にまで目が行き届くことは、環境面の改善においても期待できます。

持続可能な原料調達をどう進めるか

これに続いて、マレーシア政府もMSPO(Malaysia Sustainable Palm Oil)の制定を進めていて、試行事業が2014年に行われています。RSPOは基本的に大規模農園を対象としているのに対して、MSPOは小規模農園にも技術指導などの機会を付与するとしています。これが順調に進めば、マレーシアの農園も高いコスト(1tにつき100リンギット)のかかるRSPOを脱退することを検討していると報道されています。しかし、先行したインドネシアのISPOも認証農園の義務化が遅れているという報道もあり、両国の認証制度確立までには、まだまだ前途は多難のようです。

欧米向けの大規模農園のための認証制度としてスタートしたRSPOが、生産国主導の法制化されたSPOへの橋渡しとなれば理想です。ここでも小規模農園へのBOPインクルージブ・ビジネスの必要性があるようです。インドネシア・マレーシア両国政府の施策に期待したいと思います。

内外の大手も実際、2018年や2020年の目標に「認証油」とだけ指定して、RSPOとは指定しない目標を設定している場合も多く見受けられます。サラヤも今後の動向を注視して、持続可能でローコストな原料調達を進める所存です。

森林破壊ゼロ

大手他社は、グリーンピースの「森林破壊ゼロ」のネガティブ・キャンペーンを受けて、森を伐採してパーム油を生産している業者からは原料を買わないことや原料調達のトレーサビリティの徹底を宣言しています。森林破壊ゼロの宣言には以下の内容があります。

- 1) 「森林破壊ゼロ」方針：自社のウェブサイトなどで公式に発表しているか
- 2) トレーサビリティ：農園まで追跡可能か
- 3) 達成期限：野心的か、目標達成の工程が明確になっているか
- 4) 透明性：進捗状況を公表しているか
- 5) 実行度：複雑なサプライチェーンを調査し図式化しているか。サプライヤーを監査し、責任ある生産者を評価しているかなど

サラヤも今後、積極的に検討してまいります。

※：スケールアップ(NGO、RSPOのメンバー、URL:www.scaleup.or.id)からの聞き取り、メコン・ウォッチ資料より

参考文献 WWF(2015)「加速する?パーム油の認証制度<www.wwf.or.jp/activities/2015/01/1245527.html>(2015/7/17アクセス)
特定非営利法人メコン・ウォッチ(2012)「熱帯プランテーション問題に関する調査」(平成23年度熱帯プランテーション問題解決のための取組促進事業)、<http://www.mekongwatch.org/PDF/PlantationReport_2012.pdf>(2015/7/17アクセス)

サラヤが支援しているBES(ボルネオ エレファント サンクチュアリ)に、ついにゾウがやってきました。

2-4. 原料供給地の生物多様性保全

補強された設備

キナバタンガン野生生物保護区のLOT8に設立したBESの追加工事ではゾウを収容するパドックにスチールの屋根を吹き、水道を敷設しました。パドックの屋根には、スプリンクラーを付け、パドック内の気温を下げるができます。水道以外にも屋根に降った雨水を1.5t貯めることができるタンクを8個設置しました。熱帯の激しいスコールが降れば、30分程度で満杯になるそうです。すべて貯めると12tを貯水できます。設備が充実し、いよいよゾウの受け入れ態勢が整いました。

BESには、サラヤなどが支援しているBCT(ボルネオ保全トラスト)から派遣された2名のスタッフとヨーロッパの団体などからの2~3名のスタッフが駐在しています。

最初のレスキュー

2015年2月19日、57歳のトルピッド村の女性が仕事に出かける途中で近隣でゾウに遭遇し、軽い打撲を受けました。女性を攻撃したのは、体長2.2mのオスのゾウでした。1カ月ほど前からこの村にゾウの群が出没していたそうです。サバ州野生生物局は住民の不安に配慮して、捕獲に動き出しました。このゾウは軽い傷を負っていたこともあり、3月1日に捕獲され、BESに運ばれて来ました。野生のゾウは暴れるので、世話をする時の危険を避けるために足を繋索しています(写真右上)。

その後、ロカウイ動物園で長年保護されていた2頭のメスゾウが運ばれて来ました。2頭は人に慣れているので繋がずにパドックの柵の中で保護されています。5月下旬にさらに2頭の野生ゾウを捕獲して収容しています。

2015年5月末時点で5頭が一時保護されています。今後リリースなどの具体的な予定は決まっていますが、いずれ保護区へ移送することが必要です。BESでは、これらのプロジェクトの計画を進めながら、どう進めるかのノウハウも策定することに努力しています。

BESのあるLOT8の保護区



持続可能性のために

女性を怪我させて、3月1日に捕獲されたオスゾウ



ロカウイ動物園から引きとったメスゾウ2頭、人に慣れているので、繋がずに飼育されている。2頭とも22歳で人間と同じお年頃だ。



トラック一杯のゾウの餌

雨どいの水をタンクに貯める。

生物多様性

創業者の更家章太は2015年1月に永眠いたしました。追悼を込めて、その歴史を振り返り、これからもその精神を継承することを私達は心に誓います。



2015年3月30日に大阪市のリーガロイヤルホテルで開催された更家章太の「お別れ会」には、約3,000名にご参列いただいた。参列者には、故人の故郷熊野の山と川をイメージしてしつらえられた祭壇にご献花をいただいた。

2-5. 創業者と生物多様性

創業者、更家章太について

創業者の更家章太は、2015年1月31日未明に享年92歳で永眠いたしました。故人は、日本でも有数の生物多様性豊かな熊野の林家^{りんか}で生を受け、少年時代を過ごしました。「日本のチベット」と呼ばれる地域はいくつかありますが、熊野もその一つです。交通の便が悪いこと、山深い悪路がつづくことや太古の信仰と深く関わる地域であることなどがその謂われの根拠のようです。

そんなことで、自然環境は比較的残されています。創業者は子供の頃、熊野の尾川川で、夢中になって鮎や鰻獲りで遊びました。大きな鰻を獲って母親を喜ばせたことや水中眼鏡で遠くから見ながらヤス(手鉬)で鮎を獲ったこと、木の実やキノコなど森の恵みのことなどを楽しげに、遠いまなざしで何度も述懐していました。

1992年頃、創業者が熊野の郷里から帰ったときに、とても衝撃を受けた様子で「もはや、かつての熊野の自然は死に絶えた。」とまで言う程、生物多様性が失われていたことを嘆いていました。創業者はNHKに番組にするよう問題定義するからということで、編集者も招集されました。結局、NHKに働きかけることなく、「浦島太郎のひとり言」という自戒を込めた一文に著して同人誌に寄稿しました。

折しもリオ・サミットが開催されたのは1992年6月で「気候変動枠組条約:FCCC」と「生物多様性条約: CBD」の締約がはじまりました。“biodiversity”という造語は、“biological diversity”を略したもので、はじめて使われたのが1985年とされていますが、このリオ・サミットの時点でも「生物多様性条約会議」は“Convention on Biological Diversity”となっています。

※ 林家とは、保有山林面積が1ha以上の世帯のこと。



▲山から切り出した木材を筏に組む



▲現代の観光用の筏だが、当時の筏流しもこのような急流を下った。



▲筏は写真のように新宮市の川原に集められ、木材市で取引されていた。

サラヤの歴史に組み込まれた熊野の清流

話を戻しますが、創業者の子供時代の林家では、大事に木を育て、伐採のときも一本一本を斧で倒して、それを鉄砲流^{てつぱうりゅう}で川まで流し、後は筏に組んで下流の新宮まで運び、取引をするという自然と人の力だけの伐採・運搬方法でした。また、林業を営む家では切り詰めて無駄のない生活をしながら、必要最小限の生活の糧の分だけを伐採し、木を売ることよりも、森を育てることに力を注ぐことが、代々受け継がれた林家の信条であると、何度も詳しく語っていました。

山林を育て、森全体が元気になるようにうまく伐採し、また植林を繰り返すという当時の林業の在り方や信条、その実家から受け継いだ無駄を許さない生活感、自然の恵みに感謝する自然観や美しい自然に囲まれて磨かれた美意識が商品開発に活かされています。そうしたことも含め、「浦島太郎のひとり言」を基調に現社長の手も加わり、「熊野の清流がサラヤの原点」として、企業の歴史に組み込まれました。

里山里地の荒廃は日本各地で起こっていて、過疎化や高齢化などの社会問題が原因であるとされています。日本では環境省などが、生物多様性条約会議に加盟後、まず「生物多様性国家戦略」として、里山の復活に取り掛かりました。サラヤは、創業者の熊野育生町の所有の農地などに、甘草(リコリス: 菓草)の栽培のために1988年に有限会社 熊野菓草園を設立し、造園しました。

※: 鉄砲流とは山で伐り出した木材を山から運び出す方法。谷川に堰を作り、水を貯め、そこに切り出した木材を浮かべ、その堰を切つて、水が大量放出されて発生する急流によって一気に木材を流す方法。「鉄砲水」の語源。



山から伐り出された木材は筏に組まれ、北山川から熊野川を下って運ばれていた。創業者の父もこのようにして木材を運んでいた。

現社長の更家悠介は、大阪大学(1970年入学)で洗剤による水質汚染が深刻であった近郊の河川で、汚染度や水生生物の個体数の調査をし、廃水処理を学びました。

2-6. 二代目社長と生物多様性

3歳まで熊野育ち

現社長の更家悠介も1951年に熊野の育生町で生まれました。創業したばかりで多忙な両親と離れて、熊野で祖母のきわに育てられました。3歳までの記憶は残らないのですが、それだけにその影響は意識の底深く潜在するものです。祖母の生活は、前述の質素で素朴な林家のライフスタイルそのものでした。

また、3歳以降に暮らした東住吉区も1960年代までは、田園的などかな環境で、やはりトンボや蝶を捕ったり、ナマズやフナやコイ釣り、ザリガニ捕りに興じた子供時代でした。そんなふうに似通った子供時代を送ったので、親子の感覚はシンクロ化する部分が非常に多かったと著書(『世界で一番小さな象が教えてくれたこと』東洋経済新報社)に書いています。

1960年代から1970年の万博まで、東住吉区は開発の波に飲み込まれて大きく変貌して行きました。ハングリー精神に溢れた、活気と目覚ましい発展と物質的な豊かさの代償に、のどかな自然や生物多様性を喪失し、そのことさえも忘れ去られて行ったのです。これは、同時代に日本各地の都市近郊に住む人々が、同じような経験をしているはずで。

水質汚染のフィールド調査に携わる

大阪万博が開催された1970年に更家は、大阪大学 発酵工学科に入学しました。1~2回生では、微生物の概論、各種の実験や生理学などを学び、特にカビ・キノコ類の講義に強い興味を持ったということでした。専門課程では、市川研究室で産業廃水、河川・湖沼・近海の水質汚染を活性汚泥や散水濾床法などの微生物を使って水を浄化する方法を研究していました。

前述のように高度成長の真っ只中で、河川でも汚染が酷く、赤潮や富栄養化が頻発し、琵琶湖の有リン合成洗剤の追放運動や生協のせっけん使用促進運動なども盛んでした。そのような中で、更家は実際に兵庫県の猪名川のフィールド調査に加わり、BODの測定や水生生物の個体調査、また瀬戸内海の



大阪大学時代(右端)



2009年ボンで開催された国連生物多様性条約第9回締約国会議(COP9)の閣僚級会合時に披かれたプレスカンファレンスでの発表。

生物多様性

水質調査などに参加しました。

卒論のための研究で、「ユーグレナ」という藻を、廃水中で培養し、洗剤などで富栄養化した下水を浄化できないかと探っていました。一般的な排水は栄養素が多すぎて、微生物が異常繁殖して、水が腐ったり、生物相を変えてしまうので、この処理を藻で出来ないかと可能性を探った研究でした。この研究には協和発酵(現・協和発酵バイオ株式会社)さんなど、いくつかの企業が関心を寄せていたようでした。今では藻を使って、CO₂を吸収し、食品化やバイオ燃料化の技術が注目されています。

アメリカ留学で衛生工学を学ぶ

更家は学部の4年間だけでは、物足りなく感じて、アメリカ留学を決意します。当時は、ドルも高く、留学する人が稀で、手続きは自身で何とかするしかありませんでした。多忙な教授に英文の推薦状を書いてもらえなくて、自分で英文を書き、サインだけもらうなど道を拓きました。

カリフォルニア大学パークレー校では衛生工学を専攻しました。これには二つの要素があり、ひとつは公衆衛生的な内容で病原菌についてなどを学びます。もうひとつは自然保護的な要素がある都市工学です。エコロジー(生態学)を基礎に学んで、上水や下水道処理のプラント設計で、どのように環境と調和させるかを考えることで、現在のエコビジネスの先駆けとなるものでした。

学んだことをビジネスで実践

大阪大学での研究は、生分解性の良い「ヤシノミ洗剤」(1979年)などの商品開発に、留学時代に公衆衛生で学んだことは、感染予防のビジネスの基礎になり、生態学の知識は、自然派のサラヤの商品開発や生物多様性保全活動のバックボーンとなって、活かされています。また、青年会議所時代にリオ・サミットに参加したことやセーブ・ザ・チルドレンジャパンの設立に関わったことなどが、CSR経営の基礎となっています。



UCパークレー校時代(右端)

サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量やカーボンフットプリントの算定を開始しました。

3. 温室効果化ガスの排出(スコープ3)

スコープ3とは

スコープとは、GHG(Green House Gas: 温室効果ガス) プロトコルという世界的に認められた GHG 算定のガイドラインの中に定義されているもので、温室効果ガスの排出量の算定と報告の範囲を示します。

スコープ1は直接施設内の設備や車などで燃やす石油やガソリンなどのCO₂排出量を示します。スコープ2は、間接的な排出、電気などのように他の施設でつくられたエネルギーの使用により、間接的に排出されるCO₂排出量のことです。各電力施設により若干排出係数が異なります。福島原発事故以前は原子力が主力であったので、現在より低い排出係数で、同じ電力量を使用しても少ないCO₂排出量でした。

スコープ3のサラヤ(株)の今回の算出では、購入した原料(一部)、輸送、商品の配送などで排出するCO₂、さらには従業員の出張や通勤、販売した製品使用後の廃棄までを環境省のガイドラインに沿って排出量を算出しました。

2014年のサラヤ(株)単体のスコープ3の排出は下表の通り16,705tで80.7%を占めますが、全商品の原料調達を算出すれば、90%以上になることが予想できます。当社は化学メーカーなのでスコープ3はそれ程膨らむことはないのですが、自動車メーカーなどであれば、使用する部品の点数も膨大で、スコープ3が、1と2の合計の100倍以上になることもあるようです。

サラヤ株単体の2013年11月～2014年10月までの温室効果ガス排出量

排出源	排出量	占有率
スコープ1	1,530t-CO ₂	7.4%
スコープ2	2461t-CO ₂	11.9%
スコープ3(一部分)	16,705t-CO ₂	80.7%
排出量総計	20696t-CO ₂	100.0%

サラヤ株式会社単体の2013年11月～2014年10月までのサプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量(スコープ3)

排出源の分類	算定範囲	算定方法	CO ₂ 排出量
購入した製品・サービス(原材料の一部)	主要家庭用商品と一部業務用商品、2014年売上約5.3%を占める商品の原材料t数。	購入した量に原単位を乗算	8,651t-CO ₂
資本財(事務所・設備・備品など)	購入または取得した資本財の建設・製造及び輸送から発生する排出量	有形固定資産税前年度比較増加量に排出原単位を乗算	533t-CO ₂
水やエネルギー供給	全社の上水・ガソリン・燃料の使用量	使用量に排出原単位を乗算	416t-CO ₂
輸送、配送に伴う排出量	直送及び問屋までの輸送・保管・梱包の費用(問屋以降は不明)	金額に排出原単位を乗算	5,863t-CO ₂
事業から出る廃棄物	リサイクル量と廃棄処分量	廃棄物種類別の排出原単位を乗算	101t-CO ₂
従業員の出張に関する排出量	出張日数	国内と海外の出張延べ日数にそれぞれの排出原単位を乗算	546t-CO ₂
従業員の通勤に関する排出量	通勤交通費、マイカー通勤距離	鉄道とバス利用(交通費)・マイカー通勤(距離)に排出原単位を乗算	447t-CO ₂
販売した製品の廃棄に伴う排出量	売上分の容器・包装の総量	排出原単位	148t-CO ₂
		計	16,705t-CO ₂

2014年の算定について

サラヤは、2014年に環境省がNNTデータ株式会社に委託した「サプライチェーン温室効果ガス排出量算定支援」による算定方法の指導を受け、2013年11月～2014年10月までのスコープ3の算出を開始いたしました。またまだサプライチェーン全体の算定は出来ていません。今後目標を掲げて、段階的に取り組む所存です。

カーボンフットプリント

スコープ3と同じ手法で、1つの商品がサプライチェーン(ライフサイクル)全体でどれだけの温室効果ガス(CO₂換算)を排出するのかわかり、商品ごとに算出するのが、カーボンフットプリント(CFP)です。サラヤは、CFPプログラムに参加し、「ハッピーエレファント洗たくパウダー」がCFPプログラム参加マークを取得しました。

「ハッピーエレファント洗たくパウダー」1パック720gでは、原料の調達(920g-CO₂)、生産段階(51g-CO₂)、流通段階(45g-CO₂)、使用段階*(950g-CO₂)、廃棄・リサイクル段階(670g-CO₂)合計約2.6kg-CO₂に相当する温室効果ガスが発生していると算出されました。

*同商品は1回で十分にすすげるので、中型洗濯機(電力使用59Wh/回)で4.5kgの洗濯ものに洗たく水60ℓと洗たくパウダー60gを使用、すすぎ水87ℓ、合計147ℓを1回分に使用する上水量として算出した。

ハッピーエレファント洗たくパウダーを使って洗濯する場合、1回につき排出されるライフサイクル全体での温室効果ガスは、CO₂換算で220gとなります。

CR-AC03-15001
https://www.cfp-japan.jp



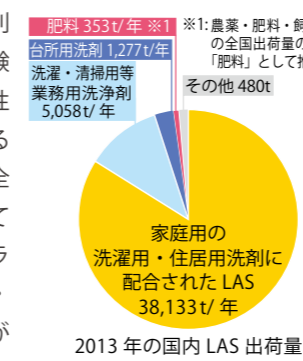
サラヤの家庭用商品にLASは使用されていません。サラヤは、酵母の発酵によって得られる界面活性剤ソホロリピッドの使用を進めています。

4. 化学物質

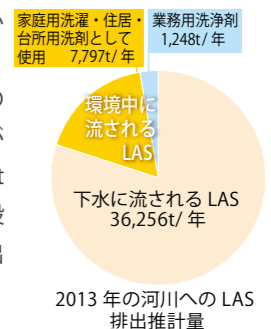
4-1. サラヤが家庭用の洗剤にLASを配合しない理由

LASの消費量の87%が家庭用

LASとは直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩:Linear Alkyl Benzene Sulfonic acidの略で、ABSは分子が枝分かれしている分解されにくい分岐鎖型アルキルベンゼンスルホン酸塩:Alkyl Benzene Sulfonatesの略です。LASは家庭用の洗濯用洗剤や住居用洗剤に多く利用されています。日本石鹼洗剤工業会・日本界面活性剤工業会の実績調査によると、LASは2013年度に全国で45,301tが出荷されていて、その用途は右のグラフのように家庭用の洗濯・住居用が84%、台所用が3%、業務用が11%となります。



直接環境中の水域に排水されています。2013年にLASは、右グラフのように約17%にあたる7,796.8tが家庭から、約3%にあたる1,247.8tが宿泊や飲食業などの業務用施設から、下水処理なしに環境中に排出されていると推測されています*4。



LASの環境基準

環境省による2013年3月27日の報道発表資料、「水生生物の保全に係る水質環境基準の項目追加等に係る環境省告示について」が開示され、LASの環境基準が定められました。環境ホルモンの作用が知られている亜鉛とノニルフェノールに続いての3番目となっています。(下表を参照)

サラヤでは

サラヤではヤシノミ洗剤発売(1979年)以来、ご家庭用の一般流通に参入いたしました。ご家庭用商品にLASを配合したことは一度もありません。また、2012年より最初の原料販売として、LASに代替できる酵母の発酵により得られるバイオ・サーファクタントの「SOFORO AD-30」を販売しています(p.16、19に詳細)。

サラヤ商品では、2001年にソホロリピッド®を自動食洗機用の「ソホロン」に配合して以来、ハッピーエレファントシリーズなど主要商品に配合しています。(表紙の裏頁を参照)

環境中に排出されるLAS

一方、下水道の普及率は全国で70.8%*2、合併処理浄化槽の整備率は9.0%*3となっています。地方では下水が整備されていないところがあり、こうした地域では下水処理なしに

*2:「水洗便所設置済み人口(平成24年度版下水道統計)、都道府県別人口(住民基本台帳)
*3:「合併処理浄化槽区域人口(都道府県別汚水処理人口普及状況)、都道府県別人口(住民基本台帳)

*4: PRTR届出外排出量推計報告書-7.pdf (http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/law/prtr/h24kohyo/todokedegai_haisyutsu/syousai/7.pdf)

環境規準法に基づく水生生物環境基準追加項目

項目	水域	類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
そ直の鎖塩アルキルベンゼンスルホン酸及び	河川及び湖沼	生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下
		生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の成育場として特に保全が必要な水域	0.02mg/L 以下
		生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.05mg/L 以下
		生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の成育場として特に保全が必要な水域	0.04mg/L 以下
	海域	生物A	水生生物の生息する水域	0.01mg/L 以下
		生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の成育場として特に保全が必要な水域	0.006mg/L 以下

環境省報道資料: http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16494

世界で年間およそ280万t、日本では4万tが消費されているLASを、少しでも酵母が作った天然界面活性剤に換えて行きたい！これがサラヤの願いであり、ミッションです。

4-2. 界面活性剤のサードウェーブ

バイオサーファクタント「SOFORO AD-30」

サラヤは世界に先駆けてバイオサーファクタント (BS) のひとつソホロリピッド®の洗浄剤としての配合商品を既に発売していましたが、ソホロリピッド®の原料化については、天然に得られるソホロリピッド®が化学的に不安定な部分があり、原料として供給するには解決しなければならない課題がありました。

天然ソホロリピッド®の基本構造を維持したマイルドな条件下で不安定な部位だけを安定化させる方法によって改良し、「SOFORO AD-30」として商品化しました。安定的で高品質、かつ安価な (BS 他社商品の 1/3 の価格) 洗剤原料提供へのブレイクスルーとなりました。最初の利用として、「SOFORO AD-30」は福島県での除染事業の道路の洗浄剤としてご活用いただいています。

低環境負荷のライフサイクル

醗酵時の油脂原料としてパーム油を使用していますが、原料作物供給地の熱帯雨林の保全や生物多様性に配慮したRSPO 認証原料を使用しています (p.9 に詳細)。酵母の醗酵プロセスは上記パーム油のほか糖類だけで、精製プロセスは培養液の沈降分離の繰り返しで完了します。また合成洗剤のように、高温高圧の環境下で化学合成する必要がなく、常温醗酵で生産できます。さらに天然物抽出時に汎用される石油由来の有機溶剤も一切使用せず精製できるので、極めて低環境負荷の中で製造が完了します。

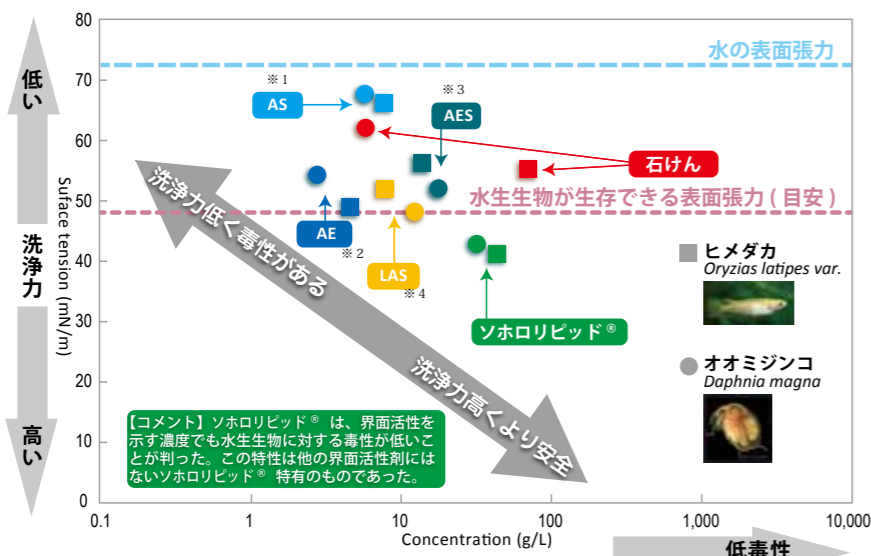
「SOFORO AD-30」は低濃度で優れた界面化学的特性があり、本来が低起泡性なので、気泡調整剤の添加の必要がありません。また、「SOFORO AD-30」は他の界面活性剤の起泡性に影響せず、台所・風呂用などの洗剤に配合できます。

また、特筆すべきは、生分解性が高いだけでなく、水生生物に対して毒性が低いことです。水生生物に対する毒性において、従来の界面活性剤はその表面張力 48mN/m が生育の下限値であるとされていましたが、「SOFORO AD-30」は 40mN/m 近くまで低毒性を示しました (下図)。人への安全性からシャンプー、リンス、化粧品などに配合できます。

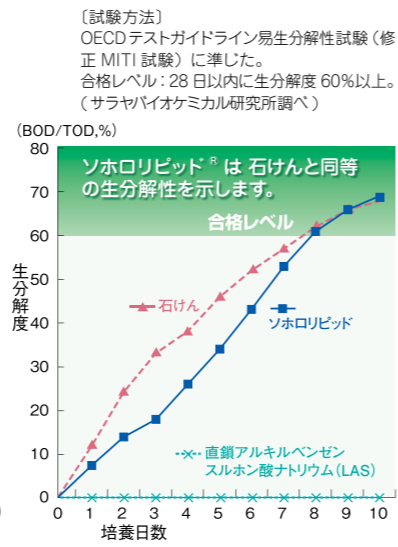
もっとグローバルに多岐に

「SOFORO AD-30」は洗浄力・低起泡性・安全性・高生分解性など兼ね備えた優れた界面活性剤です。産業革命以来の石鹼のファーストウェーブ、20 世紀後半以降の石油や植物油由来の合成洗剤のセカンドウェーブに続く、サードウェーブの界面活性剤として、石鹼以上の高生分解性と石油系合成洗剤以上の洗浄力を併せ持った「SOFORO AD-30」は、世界中でもっと広く利用されるべき天然界面活性剤です。

特に冬季や寒冷地方では、生分解が温暖下より進まないの、LAS などに代えて、「SOFORO AD-30」のような、より毒性が低く、高生分解性の界面活性剤 (下図参考) の使用が望まれます。また、下水道処理や浄化槽がなく、直接川に排水される生物多様性豊かな自然の中にあるリゾート地などでの使用を進めたいと思います。



- ※ 1: AS (アルキル硫酸塩) 高級アルコール系中性洗剤、生分解性は良好
- ※ 2: AE (ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩) 高級アルコール系中性洗剤、生分解性は良好 p.17 参照
- ※ 3: AES (ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩) 高級アルコール系中性洗剤、生分解性は良好 p.17 参照
- ※ 4: LAS (直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩) p.15 参照



ソホロリピッド®は、ヘドロになる石鹼カスが出ないことから、石鹼よりさらに環境負荷が少ないと言えます。

衛生の向上と持続可能性の両立のために、より高い目標をめざします。全社ではカーボンバランス60%以上の高水準を、個々の商品においてはOECD法に基づいた60%以上の高生分解度の処方を目指します。

4-3. カーボン・バランス

PRTR対象原料回避から「カーボン・バランス」へ

2009 年までは当社の環境マネジメント システム (以下 EMS) の自主的な取り組みとして PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 対象原料の回避を目標に掲げていました。ここ最近 2 度の化学物質排出把握管理促進法の改正において PRTR 対象物質が変更された結果、EMS の PRTR 対象物質の回避という活動目標は、より高い生分解度の洗浄剤を商品化するという当社のコンセプトと矛盾することになりました。

たとえば「ポリオキシエチレンアルキルエーテル (以下 AE)」は、代表的な代替物質として「ポリオキシアルキレンアルキルエーテル」が知られていますが、これは AE より生分解度が低いので、これで代替すると製品自体も環境負荷が大きくなります (後に詳細を説明)。また、新たに PRTR に指定された「ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩 (AES)」の代替物質は今のところ存在していません。

カーボンバランスとは

そこで当社が現時点で段階的に、独自に考え出した指標が界面活性剤の炭素の非化石 (植物) 由来と化石 (石油) 由来の比率を「カーボンバランス (以下 CB)」とするものです。非化石由来と化石由来の全炭素数の合計を分母に非化石由来の比率を % で算出します。それぞれの商品は、いくつかの界面活性剤がブレンドされているので、その混合比率で洗浄剤商品の CB を算出し、また、生産量全体で 1 年毎の CB を算出し、60% 以上の維持を EMS の活動目標に設定しました。比較できる数値として、2014 年に日本で生産された界面活性剤のうち主要な 11 種の CB は 56.1% と算出されました。

PRTR 対象物質である AE の界面活性剤 A の CB は約 40% であるのに対し、代替物質の界面活性剤 B は約 20%、界面活性剤 C は約 12% と半分以下になります。CB が低いと相対的に生分解度が低くなり、それは当社のデータでも確認されています。

AES (ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸塩) のカーボンバランスを計算してみました。

$$C_{12}H_{25}O-(CH_2CH_2O)_3-SO_3M$$

パーム核油由来 化石由来 (塩)

ラウリルエーテル ポリオキシエチレン

カーボンバランス: $12 \div (2 \times 3 + 12) \times 100 = 66.7\%$

一般的に界面活性剤は、非化石由来の比率の多いものほど生分解性が良くなります。PRTR 制度とは環境中への放出量を把握するための届出の制度です。当社には生分解性の悪い代替物質に代える方針はありません。

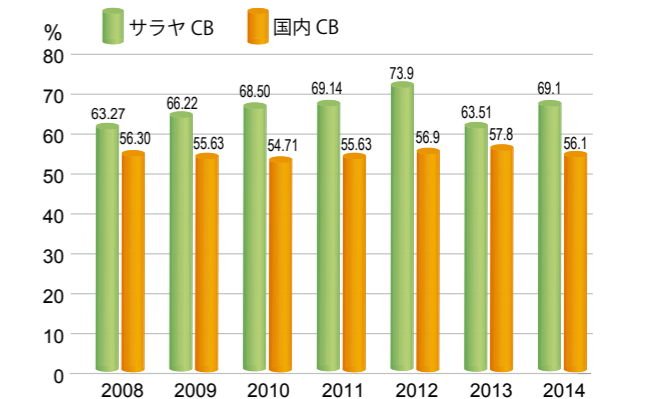
石鹼、洗剤、ハッピーエレファント3つの選択

石鹼の CB は 100% ですが、それだけで、石けんが洗剤より環境負荷が小さいと結論づけることは出来ません。洗浄力が洗剤ほど強くないので使用する量がかかり増えます。また、生分解度からみても、たとえば AES なら OECD 法で 60% 以上ですが、これは最終的には完全に CO₂ と水に分解されることを意味します。またヘドロになる石鹼カスもできません。

石鹼の分解より時間は少しかかりますが、化石由来の部分も分解され、CO₂ と水に変わり、循環します。CO₂ 排出の面から判断しても、輸送や製造にエネルギーとして化石燃料は使われるので、たくさん使う石鹼、少しで洗える洗剤、どちらとも決め難いのが事実です。

分解してくれる微生物が繁殖しにくくなる冬季や、廃水が下水処理施設や浄化槽を通さず、直接川に流される地域では、河川環境のためにぜひハッピーエレファントやアラウなどの石鹼やバイオサーファクタントの界面活性剤をお使いいただくようおすすめ致します。

今後当社では、総合的な環境影響を客観的に判断できるような指標を取り入れるよう検討します。生物多様性指標などを検討して行きます。



サラヤ商品の界面活性剤生産量カーボンバランスの推移 (日本国内の界面活性剤生産量は「経済産業省化学工業統計」主要 11 の界面活性剤について算出した。)

5. 商品開発

創業者の自然観、生活観は商品開発のバックボーンとなり、「自然派のサラヤ」のミーム[®]として、今も受け継がれています。

※: 生物学者リチャード・ドーキンスが、著書「利己的な遺伝子」の中で創り出した言葉で、ミームの心理学的定義は「文化の遺伝単位であり、遺伝子のようなものである。」と著している。

5-1. 自然派の商品開発

創業は、ソーシャルビジネスから

創業者の更家章太が、戦争直後によく大阪駅の高架下で目にした悲しい光景がありました。それはムシロで覆われた遺体でしたが、死因は空襲や飢餓ではなく、赤痢などの伝染病で亡くなったご遺体でした。その年の赤痢患者発生数は11万1千7百9人に昇り、その中に含まれていて、亡くなった人々でした。

それが、当時も今も変わらず衛生のベースとなる手洗いの事業を起業したきっかけとなりました。今で言うソーシャル・ビジネスですが、これは2012年のウガンダ現地法人のサラヤ・イースト アフリカの設立として受け継がれ、60年後のマイルストーンとなっています。

自然派のサラヤのロングラン商品

当時は、石鹼液を製造できる脂肪酸は、オリーブ油かヤシ油(ココナッツ)由来のものしかなく、その頃の日本ではあまり食用には使われなかったヤシ油を原料にしています。固形石鹼が集団で使用する産業衛生に向かない理由は様々ありますが、交差汚染を防ぐための衛生上の必然的選択です。

衛生的なしっかりした手洗いができ、手肌にやさしい緑色の石鹼液は、便利な石鹼液容器とともに、かつての基幹産業であった紡績工場、そして鉄鋼などの重厚長大産業の工場の手洗いや食品衛生へと広がって行きました。これは後に「シャボネット石鹼液」としてリニューアルし、1959年頃より官公庁や学校の手洗いやと普及し、さらに学校給食の食品衛生へと広がりました。

学校で給食の前や絵を描いた後に手を洗った緑色の石鹼液のご記憶はお持ちでしょうか? 発売後63年の今も公共施設の手洗いやスーパーのバックヤードなど全国でご愛用いただいています。店頭でも「シャボネット石鹼液」をお買い求めいただけます。

食品衛生の手洗いに加えて、食器洗い用洗剤「サラヤニューSS」を1971年に発売しました。これには、LASが配合されていました。LASの催奇性に関する問題も表面化しましたが、依然としてLASやABSなどの合成洗剤隆盛の中、1978年にサラヤは、LASを使用しないヤシ油脂肪酸が主成分の業務用ヤシノミ洗剤を発売しました。当時の市販の食器用洗剤にはLASはもとよりABSさえも普通に配合されており、手荒れの原因にもなっていました。お得意様の学校給食の調理師さん達からヤシノミ[®]洗剤では手荒れしないので、家庭用も欲しいとの要望がたくさん寄せられました。こんなことから、同年ご家庭用のヤシノミ[®]洗剤を店頭にも発売し、ご家庭用の市場に参入しました。発売からココヤシ油由来の成分を主



サラヤニューSS 1971年 ヤシノミ[®]洗剤 1978年 ヤシノミ[®]洗剤 1979年 ヤシノミ[®]洗剤 2007年

要原料にして来ましたが、原料コストの高騰により1984年12月より、ヤシノミ[®]洗剤の一部原料にヤシ油脂肪酸とほぼ同じ成分バランスのパーム核油由来の脂肪酸を使用しています。LASの原液は濃いセピア色で、薄めると黄色になりますが、LASが入っていない無色透明のヤシノミ[®]洗剤の液色が、安心のシグナル・フラッグとなっています。

ゾウさんにこんなに迷惑かけているとは…

生物多様性保全に関する取り組みは、TV番組のインタビューが直接のきっかけになりました。手肌にやさしく、JIS法で生分解度99%(OECD法60%)以上のヤシノミ[®]洗剤やシャボネット石鹼液はユーザーや日本の河川にはやさしい商品でした。しかし、原料供給地では事情は全く異なりました。原料作物のアブラヤシ農園の拡大が野生のボルネオゾウやオランウータンの棲息地の熱帯雨林を奪っていました。

この事実をどう思いますかと、社長の更家悠介が問われたのです。「ゾウさんにこんなに迷惑かけているとは知りませんでした。」と答えたのが2004年7月、翌月から活動がはじまりました。調査員として中西宣夫を採用し、獣医師坪内俊憲氏、霊長類学博士イザベル・ラックマン女史と同マーク・アングレナス氏と知り合い、ボルネオサバ州のキナバタンガン川の両岸の熱帯雨林を保護するという「緑の回廊計画」を知りました。

年末にはRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に入会を申請、翌年早々に更家はマレーシアのクアラルンプールに飛び、RSPOの総会に参加、「緑の回廊計画」の必要性を農園経営者に訴えました。さらに、2007年よりヤシノミ[®]洗剤やハッピーエレファントのシリーズ商品売上げ1%でボルネオ保全トラストを支援する“ボルネオはあなたが守るキャンペーン”をはじめました。持続可能な原料調達については、p.9に詳細を記載しています。

持続可能な商品を追い求めて

生物と界面活性物質

酵母が洗剤(界面活性物質)をつくるのをご存知でしょうか。洗剤というと衛生的な生活を送るために必要不可欠な化成品というイメージが強いため、生物にとってはむしろ有害な物質のように感じます。しかし、体内で食物油脂の分解・吸収に重要な役割を果たしている胆汁酸は極めて優秀な界面活性物質です。すなわち、生物と界面活性物質は極めて身近な関係にあると言えるでしょう。

このような生物由来の界面活性剤物質を総称してバイオサーファクタント(Bio-surfactant[®]、以下BS)と言います。酵母など微生物の中には、BSを菌体外に分泌生産する種もあり、胆汁酸の作用と同じように、水に溶けにくい油脂を分散・乳化して、体内に取り込みやすくしています。「人間と同じ仕組みを酵母も使っているのだ」と感じますが、実は地球の先住生物は微生物ですので、むしろ人間が自然の仕組みをうまく取り入れていると理解するのが正しいかも知れません。

※: Bio-surfactant, “Bio”は生物, “Surfactant”は界面活性剤を表しています。

人類と洗浄

さて、洗浄の歴史を辿れば、人類文明の起源にまでさかのぼることができます。古くは、宗教心から発したと言われ、神の前では清潔であろうとし、口や身体、衣服を清めました。しかし、洗浄は決して人間に限った行為ではなく、哺乳類や鳥類、魚類ですら、自然に存在する何らかの手段を利用して習慣的に洗浄しています。衛生的で健康な生活を送るためには洗浄が重要だと本能的に認識しているようにも映ります。石油由来の洗浄剤が開発された20世紀はじめから、たった50年ほどの間に洗剤が生活必需品となったのも当然のことのように思えてきます。

人類は洗浄剤という非常に便利な道具を手に入れた一方で、環境汚染や環境破壊、安全性などの諸問題と向き合わざるを得なくなりました。多くの製品開発の努力や法整備によって解決された問題も多いですが、今なおさらに安全な洗浄剤の開発も望まれています。安心・安全な界面活性剤の代表例である石けんのシェアが、ここ10年の間4%前後を維

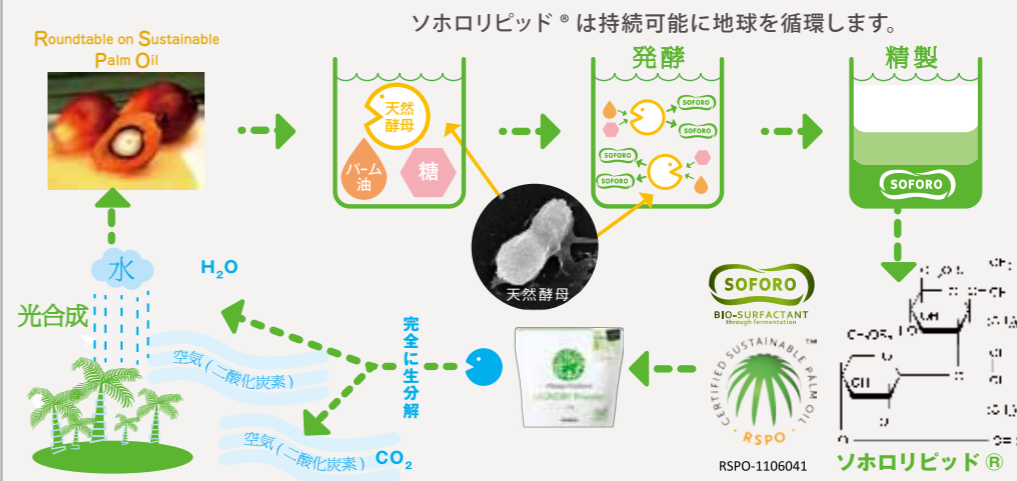
持していることから、現状に不安を感じているユーザーが少なからず存在していることが理解できます。このような背景のもと、“自然派のサラヤ”として、石けん、化学合成界面活性剤に次ぐ第三の界面活性剤の研究開発に取り組んだのが1997年です。

酵母がつくる洗浄剤

石けんの安心・安全そして化学合成界面活性剤の高性能をあわせもつ物質を探したところ、“酵母がつくる洗剤”にめぐり会いました。この洗剤がBSのひとつであるソホロリピッド[®]です。そして、高度発酵生産法と石油系化学合成界面活性剤に匹敵する性能を見出し、2001年に食器洗い乾燥機専用洗剤「ソホロン」を業界に先駆けて商品化することに成功しました。現在、ソホロリピッド[®]を配合した商品は“ハッピーエレファント”ブランドなど30種を超えるまでになりました。用途は原発事故で飛散した放射性物質の除染から化粧品まで多岐多様にご使用をいただいています。これはソホロリピッド[®]が自然環境や人体に適合したまったく新しい洗剤である所以です。未来の洗浄は微生物由来のBSに置き換わっているかもしれません。

自然から学ぶ商品開発

このように自然から学ぶ技術は環境に調和しており効率的で持続可能です。たとえば、高速で走る新幹線は空気抵抗も大きく騒音を出しますが、音を立てずに飛ぶフクロウ(羽)や高速で水中に飛び込んで巧みに魚を捕獲するカワセミ(嘴)から学ぶことで、騒音だけでなくエネルギー効率までも改善しています。また、人間の脳を模倣したスーパーコンピューター(仮想)の電力消費量は10億ワットとも言われ、このコンピューターを冷やすのに川を一本引く必要があると想定されています。一方で、人間の脳は20ワットしか消費せず発する熱もほとんどわからない程度です。こう考えて行きますと、生物誕生以来、40億年という途方もない時間を経た現在には、まだまだ多くの高性能と環境適合性を両立する技術が眠っているのでしょうか。今後も謙虚な姿勢で自然を観察し、持続可能な商品の開発を続けていきたいと思えます。



サラヤ株式会社
バイオケミカル研究所
研究所長

平田善彦

2007年よりコースブランディング(販売額に支援金を含める)を開始しました。以来様々なブランドで、多様な社会貢献活動を支援しています。

5-2. ご家庭用のコースブランドと商品関連受賞

サラヤのコースブランディング商品とキャンペーン協賛・加盟商品の一覧表

開始	寄付団体	活動名と目的	シリーズ・ブランド名(アイテム数)
2007	BORNEO CONSERVATION TRUST ボルネオ保全トラスト ボルネオ保全トラストジャパン	ボルネオはあなたが守る!キャンペーン 生物多様性保全の鍵となる川沿いの土地を野生生物生息地として確保・保全する「緑の回廊計画」やボルネオ・エレファント・サンクチュアリのレスキューセンター建設・設備充実、啓発活動など。	ヤシノミ洗剤(8) ハッピーエレファント(11) ココバーム(4) アユルスバ(4) のメーカー出荷額1%
2010	We Support unicef ユニセフ	ウガンダ 100万人の手洗いプロジェクト ウガンダでの子供とお母さんへの手洗い普及活動支援。手洗い設備の学校への寄付、小学生や妊産婦への手洗い啓発活動、手洗いアンパサダーの活動などのユニセフによる実施を支援。	シャボグリーン(9) ハンドアルコール(3) ハンドジェル(2)
2011	WHITE RIBBON 乳がんの啓蒙活動 ジョイセフ	ホワイトリボン 栄養失調や栄養不足、劣悪な衛生面、技術と知識のある助産師の不足、保健医療サービスの欠如、無医村など途上国の妊産婦には様々な障害があります。途上国の妊産婦を守る活動を支援しています。	ラクトフェリンラボ(5) ニウウラ(4)
協賛・加盟			
2006	「治らない」から「治る」へ 特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク 日本IDDMネットワーク 「治らない」から「治る」へ	糖尿病との闘いのために団結せよキャンペーン 国連で決議され、国際糖尿病連合(IDF)が推進しています。	ラカントS(5) ラカントホワイト(2) ラカントカラーゼ口飴(3) ラカントのジャム(3) ラカントすし酢(1) ラカントすき焼きのたれ(1) ラカントぜんざい
2014	world diabetes day 「糖尿病との闘いのために団結せよ」(United for Diabetes)キャンペーンのシンボルマークです。	糖尿病との闘いのために団結せよキャンペーン 国連で決議され、国際糖尿病連合(IDF)が推進しています。	

環境に配慮されていて、自身の生活に取り込むことができ、持続可能なライフスタイルを実現するロハスな商品やサービスなどを、「ヒト」「モノ」「コト」の部門ごとに、生活者の目線で審査・投票が行われ大賞が決められるのがロハスデザイン大賞です。

回	年	ロハスデザイン大賞のテーマ	受賞部門	受賞商品
第3回	2008	リニューアブルデザイン「私たちが地球の生活スタイルを新しく楽しいものに変えてくれるデザイン」地球温暖化や生物多様性の保全といった社会的課題を踏まえ、自分と地球にとって持続可能で健やかなライフスタイルを実現してくれるもの。	コト	ボルネオ環境保全運動
第4回	2009	ローカーボンスタイル/低炭素社会へのチャレンジ 地球温暖化防止、低炭素社会の構築や生物多様性の保全といった地球規模の課題を前提に、自分と地球にとって持続可能で健やかなライフスタイルを実現してくれる、ロハスな「ヒト」「モノ」「コト」。	モノ	ヤシノミ洗たくパウダー・ネオ
第6回	2011	エコ・ネイティブなヒト・モノ・コト 幸せにつながるグリーンな選択を!人と地球をつなぐエコ、幸せにつながるグリーンな選択をすることができる、エコ・ネイティブな「ヒト」「モノ」「コト」。	コト	100万人の手洗いプロジェクト
第7回	2012	ソーシャル・デザイン-新世紀世代/エコネイティブ世代が求めるつながりと信頼の価値-未来の環境、未来の健康を求めるサスティナビリティ。そんな未来へと"つながる"ソーシャル・デザイン。	コト	SARAYAの仕事
第8回	2014	ソーシャル・デザイン 2013 社会をよりよく、豊かに変えていくソーシャル・デザイン。	特別賞	隣人祭り LONG TABLE(共同受賞)
第9回	2014	ソーシャル・デザイン 2014 ソーシャル・デザインとは、社会をよりよく、豊かに変えていく方法のこと。それはモノやコミュニケーションの仕組みやソーシャル・リーダーなどさまざまです。	モノ ソトコト	「ハッピーエレファント」シリーズ 隣人祭り LONG TABLE(共同受賞)
第10回	2015	ソーシャル・デザイン 2015 未来計画 「ソーシャル・デザイン 2015 未来計画」。	モノ	ラクトフェリン・ラボ(下写真)



第16回グリーン購入大賞「優秀賞」受賞 - 東京サラヤ

グリーン購入に関する優れた取り組みを表彰する「グリーン購入大賞」で東京サラヤが「優秀賞」を受賞いたしました。
授賞理由:「次世代の自然派洗剤『ハッピーエレファント』〜持続可能なバーム油を原料とした天然の酵母による非石油系洗剤の開発・製品化と製品の環境情報提供〜」



「第10回ロハス大賞 2015」
モノ部門大賞受賞
ラクトフェリン ラボ

サラヤでは要介護者のための嚥下補助食品やアセアン地域で食品を無駄なく、衛生的に流通させるためのコールドチェーンのご提案を進めています。

5-3. 嚥下補助食品 とコールドチェーン

嚥下補助食品

現在日本は、国民の4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えており、2050年には3人に1人が65歳以上になることが推計されています。サラヤでは、手指衛生を基本として介護施設向けの衛生用品を様々開発していますが、それに加えて嚥下補助食品を介護用にご用意しています。要介護の高齢者には、嚥下困難からの誤嚥が肺炎の原因になることが心配されます。

嚥下補助食品は、とろみをつけることにより、飲み込みやすくし、飲み込む力の弱い高齢者にも、むせることのないよう嚥下補助するための商品です。「経鼻胃管栄養」などチューブにより胃に直接送り込むことに頼らない、口からの水分補給や栄養補給がしやすくなります。

介護施設向け嚥下補助食品の「とろみ名人マルチクイック」に加えて2014年には、施設はもとよりご家庭一般での介護にも手軽にお使いいただけるよう開発した「スマイルヘルパーさん」シリーズ「とろみ調整食品」を新発売しました。



とろみ名人
マルチクイック



スマイルヘルパーさん
とろみ調整食品

これら商品は、ダマになりにくく、お茶などに混ぜるだけでサッと溶けるので、手軽にとろみをつけることができます。安定して粘度が保たれ、調整も簡単です。味も色も変えずに嚥下困難な方の食事の安心と美味しさをサポートします。

また、日本介護食品協議会が定める自主規格に準じた表現や規格に統一し、利用者が選びやすく使いやすいように、ユニバーサルデザインフード(UFD)マークを付けています。

コールドチェーン

農産物や海産物の生鮮食品を無駄なく、効率良く利用するための「ラピッドフリーザー」を利用したコールドチェーン(低温流通)システムをアセアン地域を中心に普及させることを目指しています。



冷気で冷やす従来の方法よりエネルギー効率が良く、低コストで冷凍・保存できます。食材を微酸性電解水で洗浄・除菌し、シーリングパック後、「ラピッドフリーザー」(写真)で冷凍液によって急速冷凍します。食品の細胞膜を破壊せず、高品質を保った状態で長期冷凍・保存できることが特長です。

アセアン地域の特産品の流通により、バリューチェーンを構成する生産者、製造業者、流通業者、消費者に大きな付加価値をもたらし、食糧の安定供給に貢献します。

ホワイトリボン運動を支援ースキンケアブランド「ラクトフェリンラボ」

ータンザニア母子保健棟現地視察 2015ー

サラヤは感染予防の視点から免疫機能に関与する新成分研究を続ける中で、哺乳類だけが持つ乳たんぱく質「ラクトフェリン」の免疫増進機能に着目しました。「ラクトフェリン」は世界中で経口摂取による様々な研究成果が発表されていますが、サラヤは創傷治癒効果の独自研究で2008年日本ラクトフェリン学会賞を受賞しました。これは「ラクトフェリンを肌に塗ったらどうなるのか」という新しい着想でした。この研究成果を応用して肌トラブルに悩む人たちに役立つスキンケア化粧品ブランド「ラクトフェリンラボ」が誕生しました。

サラヤはご家庭用に3つのコースブランディングを展開していますが、「ラクトフェリンラボ」は世界中の途上国の妊産婦と赤ちゃんの命を守ることを目的としたホワイトリボン運動を支援するため、売上の一部を日本事務局である公益財団法人ジョ

イセフに寄付しています。2015年6月、支援プロジェクトであったタンザニア母子保健棟改築現場のジョイセフ視察が実施され、村民と共に母子が向かい合う姿を模したハート型の「ラクトフェリンラボ」図形商標を母子保健棟にペイントするセレモニーで、現地運営への引渡しが完了しました。

この母子保健棟がこの地域の妊産婦と新生児の死亡率を下げること役立つことを期待しています。(写真右端)



コミュニケーション本部
取締役 本部長

代島 裕世

6. 人権への取り組み

途上国の衛生の向上に貢献するために本業と社会貢献の両面から取り組んでいます。特に5歳以下の乳幼児と妊産婦の死亡率削減のため、創業からの歴史で積み上げた技術やフロンティア精神で衛生の普及に尽力しています。

6-1. BOPインクルージブ・ビジネス

国連環境計画 ビジネス行動要請に加盟

サラヤは、ビジネス行動要請 (Business Call to Action : BCtA) に加盟しました。2014年9月24日にニューヨーク国連本部で行われたBCtAの年次フォーラムでは、サラヤのウガンダにおけるアルコール消毒剤現地製造販売ビジネスがBCtAの事例の1つとして発表されました。サラヤの加盟は、世界100を超える参加企業の中で、日本企業としては8社目の参加となりました。

BCtAとは、国連開発計画 (UNDP) とグローバル・コンパクトの他5つの政府機関*が主導する、長期的視点で商業目的と開発目的を同時に達成できるビジネスモデルを模索し、促進する取り組みです。BCtAは、企業がそのようなビジネスモデルと企業のコアとなる技術を適用しながら、貧困層の成長を活性化させ、ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成を促進することを目的としています。

*:オランダ外務省、英国国際開発省 (DFID)、スウェーデン国際開発協力庁 (Sida)、米国国際開発庁 (USAID)、クリントン・グローバル・イニシアティブ

ビジネス行動要請が目指すこと

- ・雇用の創出
- ・環境の持続可能性への貢献
- ・途上国の医療問題への取り組み
- ・女性への機会の提供

などによって数百万人の生計向上に努力することを公約しています。



【サラヤ】ウガンダの医療現場でのアルコール手指消毒の普及



サラヤの事例

http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/partnerships_initiatives/privatesector/privatesector5/bcta_6.html

Private Organizations for Patient Safetyに加盟

サラヤが2012年冬に加盟したPrivate Organizations for Patient Safety (POPS)とは、“A collaboration between the World Health Organization Patient Safety Programme and Industry” (WHO患者安全プログラムと企業の協力)を趣旨とし、加盟企業は医療関連感染の削減のために協働して、公共衛生に貢献することを目指します。



日経アジア感染症会議

日本経済新聞社と日経BP社が、国内外より感染症対策に関連する行政機関・団体・学会など、産官学すべてのステークホルダーをアジアのハブである沖縄に集結させ、2014年より「日経アジア感染症会議」を開催しています。この会議を通じて、国内のみならずアジア域内に向けて幅広く情報発信し、アジア域内の感染症対策の重要性と連携の必要性を訴え、感染症対策における日本のリーダーシップ確立につなげることが確認されました。

サラヤは、第1回と第2回とも協賛し、講演にも参加しました。第2回は、2015年1月に開催され、分科会③「アセアン・患者安全への挑戦～WHO “Clean Care is Safer Care”～サラヤ」で、更家悠介 (サラヤ社長)、ジュネーブ大学附属病院ディディエール・ピッテ教授やラオス保健大臣が講演しました。2014年開催の第1回では、分科会A-1「感染を『未然』に防げ！日本企業のリソースとプロダクトを活かしたアクションプログラム」で、北條 健生 (サラヤ) が講演しました。



分科会で、サラヤのウガンダでのアルコール手指消毒剤の製造開始について、更家が発表した。

アジアではカンボジアで衛生向上のためのBOPインクルージブ・ビジネスを進めています。

6-2. カンボジアでのBOPビジネス連携促進

カンボジアの人口と貧困率

CIA (米中央情報局) のThe world factbookによると2014年のカンボジアの総人口は、約1億5千500万人と推計されています。その内24歳以下が52.1%、65歳以上は4%となり、底辺が大きいピラミッドの人口構成となっています。

2014年に世界銀行が発表した、“Where Have All the Poor Gone? Cambodia Poverty Assessment 2013,” (貧困はどこへ行ったのか？カンボジアの貧困度調査)によると、カンボジアの貧困率*は、2004年の53.2%から2011年には20.5%に大幅低下しています。これは、2015年までに貧困率を半減させるというミレニアム開発目標を6%近く上回る成果となります。

米の価格の上昇と米の生産増加が影響したことが要因と分析されています。また、農家からマーケットへのインフラや携帯電話等によるマーケット情報へのアクセスの改善、灌漑システムの改善、自由で公正な農産品マーケットなども成果につながったと分析されています。

*:貧困率は全人口に占める貧困層の割合。世銀は1日に1ドル以下の生活者としている。

BOPビジネス連携促進準備調査

JICA (国際協力機構) と業務委託契約を締結し、サラヤ株式会社と学校法人東洋大学、オリジナル設計株式会社による「カンボジア王国殺菌剤石けん液等の普及による衛生状況改善事業準備調査 (BOPビジネス連携推進) のパイロット事業が、7つの医療施設*1と4教育機関*2他、2つのスラム地域*3の家庭や寺院*4で、2013～2014年にかけて実施されました。

主な内容は、シャボグリーンフォーム-250ml、ヒビスコールSH-1ℓ、サラヤジェルSH1-40mlを無償提供し、使用方法を含めた感染予防の勉強会やセミナーを実施、薬液使用状況のモニタリングやアンケートの実施などですが、詳細は下記リンクからご覧いただけます。

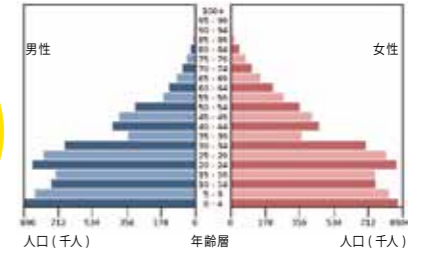
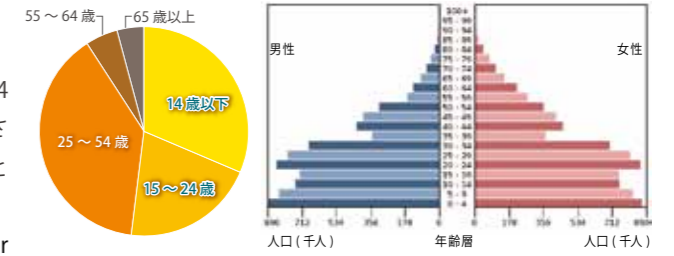
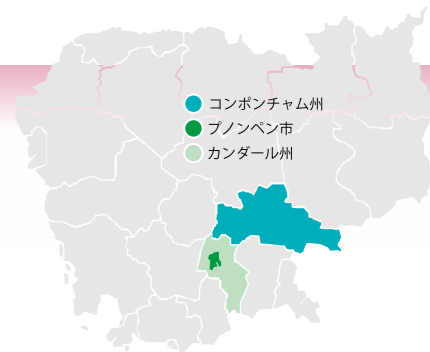
<http://libopac.jica.go.jp/images/report/P1000019438.html>

*1: カルメット病院・国立小児病院・国立母子保健センター (プノンペン都)、Batheay Referral Hospital・Dey Eth Health Center (カンダール州)、Koh Roka Health Center (コンボンチャム州)

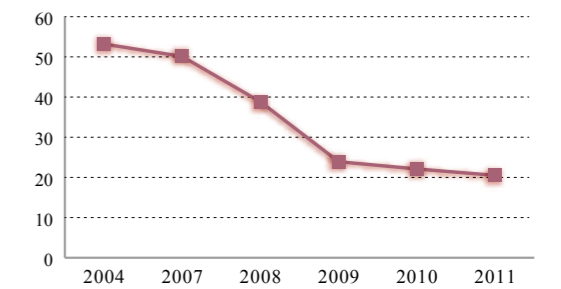
*2: Aziza School (スラム地区内学校、プノンペン都)、Banteay Dek Junior High School (カンダール州)、Koh Koul Primary School (コンボンチャム州)、Koh Tunte Primary School (コンボンチャム州)、その他

*3: プーディン地区 (プノンペン都スラム)、Uquen thi thou 地区 (プノンペン都スラム)、

*4: PSA THOM、寺院等



カンボジア世代比率 カンボジア人口ピラミッド



Source: "Where Have All the Poor Gone? Cambodia Poverty Assessment 2013," World Bank.

カンボジアの貧困度の推移

手指消毒と手洗いの実施状況

各医療施設でラボ、分娩室、待合室、トイレなどのアルコール使用量の目測が実施されました。雨季での使用量が突出していて、洪水による衛生環境の悪化のためと判断されました。院内感染予防の成果については、2014年開催のアセアン感染予防国際会議で2つの病院での結果が発表されました。

学校では、副校長が早退や欠席が続く生徒のケアとして、自宅までの送迎や訪問などの回数が大幅に減少したことが報告され、パイロット調査機関を通じて、生徒の健康状態の改善が確認できました。公費での消毒液常備が出来ない状況で、生徒たちの自主的なクラス単位での自己負担による活動になると言うことでした。生徒への衛生啓発にも大きな成果があり、今後は後輩に受け継がれて行くことを期待したいと思います。



左より、サラヤジェルSH1、シャボグリーン、ヒビスコールSH

ウガンダでは、アルコールによる手指消毒の普及に続いて、医療器具の衛生管理の改善に取り組み、医療関連感染の削減を目指しています。

6-3. ウガンダ医療衛生向上のためのプロジェクト

全自動医療器具洗浄消毒器をウガンダ4病院に導入

サラヤは、JICAが進める事業「民間提案型普及・実証事業」における業務委託契約を締結しました。これは、ウガンダ国保健省が、ウガンダ国のエンテベ病院、ゴンベ病院、ジンジャ地域中核病院、ムラゴ国立病院の4病院にサラヤ提供の全自動洗浄消毒器「サラヤ ウォッシャーディスインフェクター AR-40」を設置し、医療関連感染を予防するための感染管理を試験的に実施し、ウガンダ国内での普及のモデルとするものです。

ウガンダでは、5歳未満の乳幼児死亡率が千人中90人と高く、保健・医療分野の環境が未整備であることがその原因のひとつとされています。また、医療従事者の感染制御の知識不足や不衛生な医療機器が原因で、医療従事者や乳幼児をはじめとする患者が、医療関連感染により感染症に罹患し、あるいは死亡したと推測される事例が数多く報告されています。医療器具の衛生管理が劣悪であることも指摘されています。

今回の実証試験では、太陽光発電パネルや貯水タンクの併設で、頻繁に起こる停電・断水に対応しています。使用する洗剤は、「パワークイックW」を使用しています。将来的には、現地製造化を進め、低コストで供給できる環境を整えることを計画しています。

また、医療関連感染管理についての教育・啓発も同時に行うことで、医療従事者と患者の双方の感染リスクの低減を図ります。実施期間は、2013年12月～2016年2月の約2年間です。サラヤのウガンダ現地法人でも、医療分野の衛生インストラクターを養成し、医療衛生の向上に努めています。



ウガンダのエンテベ病院にウォッシャーディスインフェクターAR-40を設置。



パワークイックW

サラヤウォッシャーディスインフェクターAR-40

ウガンダ医療関係者への感染管理研修

このプロジェクトでは、「サラヤウォッシャーディスインフェクターAR-40」のフィールドテストとともに、感染管理分野の人材育成が大きなテーマとなります。2015年5月にウガンダより保健省、ウガンダ国立・県立病院の感染管理担当者9名をJICAとサラヤが日本に招聘しました。

「感染管理研修」をメインの目的に、サラヤが企画し、主にサラヤ本社内で実施しました。ウガンダでは医療従事者向け研修は何度も実施されてきましたが、感染管理に特化した例はありませんでした。今回は実習を中心に構成し、より実践的な研修内容となっています。

今後本国ウガンダでは、この参加者等と協力して内容をブラッシュアップし、次は彼らが講師を務め、現地での研修を進めることを計画しています。また、研修最終日のアクションプラン策定では、保健省が中心となって感染管理の組織を立ち上げ、現地主導での継続的な活動が立案されています。これについても、サラヤは引き続きサポートし、ウガンダの医療衛生の向上に貢献して行きます。



ウガンダからの参加者9名とサラヤスタッフ。

ウガンダ最初の衛生インストラクターより

ここ数年アフリカでは、エボラ出血熱やマールブルグ病などが深刻な問題となっていますが、ウガンダもそんな国のひとつです。しかしながら、ウガンダ人の多くの命を守る当社のアルコール手指消毒法が一条の希望の光となっています。

サラヤ・イースト・アフリカ(SEA)のメンバーは、ほとんどのウガンダ全国の医療施設と入国審査官にアプローチしています。

そこで、私たちが気付いたことは、大半の医療従事者は、病原体がどう広がり、そしてどうしたら防げるかを一応知識としては知っているのに、なぜか実行はしていないということです。ほとんどの医療従事者にとって、手指衛生の励行は日々やらなくてはならない仕事として、業務化していません。それぞれの施設に水や石鹸の不足、インフラの未整備、うっかりしたり、他の業務で忙し過ぎるなど事情は多々ありますが、医療関係者と意思決定者への手指衛生の重要性の気付きのなさによって“clean care is safer care campaign”の推進活動から取り残されています。

こうした事情で、感染拡大との戦いのためのSEAの仕事は大変期待されています。SEAはウガンダ国内のみならず東アフリカ全域で標準の看護の一環としてアルコール手指消毒への移行を推進しています。医療施設への最初の取り組みでの我々の経験が、エンテベの空港やホテル、銀行、学校など人の出入りが激しい公共施設への市場開拓につながっています。これは、ウガンダのゴンベ病院での検証で成し遂げられた衝撃的な結果がはずみとなっています。

ゴンベ病院では、ルレ医師によって帝王切開後の敗血症と小児科病棟での出血性下痢症の決定的な減少が見られました。WHOやCDC(アメリカ疾病予防管理センター)などの国際基準に準じていて、広域殺菌力がある高品質の当社商品のお陰で、エボラ出血熱やマールブルグ病のアウトブレイクから、この国ではどこへ行っても歓迎されました。

SEAはアルコール手指消毒剤の継続的な供給を確約し、東アフリカの住民のために貢献することを託されているので、ウガンダのジンジャに工場を設立しました。また、私達は商品とともに手指衛生の豊富な情報と講習や手指衛生啓発ポスターも提供しています。SEAには衛生インストラクターのチームができましたが、手指衛生の重要性の講習だけでは終わらずに、病室や待合室などディスペンサーを設置するのにびったりな場所のガイダンスも行っています。

衛生インストラクターの先輩としての経験を通して分かったことは、病院職員の手指衛生の順守のフィードバックが、どれだけ手指衛生が実施されているかを病院に気付かせ、これが変化のきっかけになることです。そのために、私達の方もWHOのガイドラインに従って手指衛生順守のモニター方法について担当者を指導しているのです。

私達が手指衛生の向上のための長短期戦略を推し進めるのであれば、施設のスタッフを巻き込まなくては変革はできません。私達SEAは医療従事者や重要関係者に意識的に積極的に働きかけています。そして、手指衛生の必要性を分かっただけではなく、手術室で使うアルコールと、方や数種のエモリエント剤が配合されていて手肌を保護しながら消毒できる2つの効果がある当社のアルコール手指消毒剤を使った場合の違いをしっかりと分かっただけでさえすれば、SEAはこの地で未永く発展することでしょう。

Saraya East Africa Co., Ltd.
Senior Hygiene Instructor

Robinah Ajok



感染管理研修に参加して

日本で開催された感染管理研修は、重要かつ関心のある内容で、指導がしっかりしていましたが、一番肝心な教育的であるかどうかという点でも充分でした。参加者は興味を持って理解を深めることができました。

私が所属する Jinja Regional Referral Hospital はウガンダの首都カンパラの東方80kmにあり、2015年4月にはじまった「サラヤ ウォッシャーディスインフェクターAR-40」の実証事業の対象となっている4つの医療施設のひとつです。SEAを通して提供された6台と専用洗浄剤(パワークイックW)が手術室や歯科、産婦人科、外科、外来に設置されています。この機器によつて、血液や体液で汚染された使用後の医療器具を洗浄剤で洗浄し、消毒します。

このAR-40は、操作が簡単で分かりやすく、低コストで手術器具の初期洗浄ができます。全自動で安全設計なので、使用者の感染リスクが低減されます。塩素消毒液で処理するより経費節約ができ、しかも塩素消毒剤の場合、不適切な使用で器具が腐食したり、濃度不足だと殺菌効果がありません。医療施設ではAR-40への切り替えを推奨します。

Infection Control
Clinical Officer,
Jinja Regional
Referral Hospital

Kizito John



感染管理研修の参加者、ジョンさん。

7. 環境パフォーマンス

全従業員がEMS活動を通じて、日々の省エネや休日の社会貢献活動などに取り組んでいます。

7-1. 環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム

実際の活動単位は、事業所の中でさらに細分化され北海道から沖縄まで全国に渡り、全社 65 の部署単位で活動を行っています。EMS 全社事務局は、環境管理責任者を補佐し、全部門の日常活動管理を行います。

26 名の内部監査員が年 2 回の内部監査で各部署の活動実施状況の厳しいチェックを実施しております。これら活動状況は、全社環境保護推進委員会（常務会）に報告されると共に、最高経営者（社長）には、定期的マネジメントレビューにおいてすべて詳細な報告がなされます。



ISO 認証取得状況

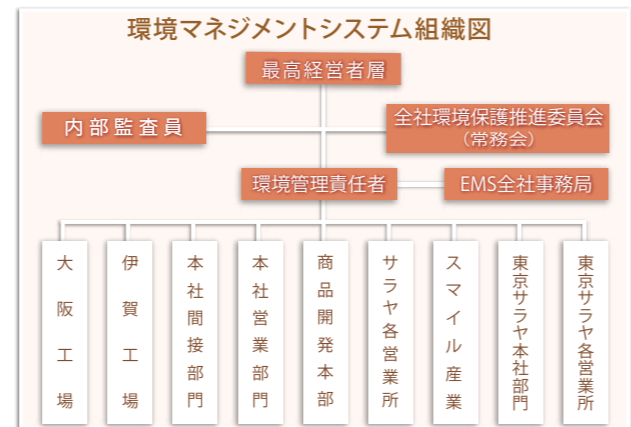
ISO	対象組織	部署	取得日	認証番号
9002	サラヤ(株)	大阪工場、伊賀工場	1999 12/13	JCQA-0608
	スマイル産業(株)			
14001	サラヤ(株)	全社	2001 11/26	JCQA-E-0319
	東京サラヤ(株) スマイル産業(株)			
9001	サラヤ(株)	全社	2002 12/13	JCQA-0608
	東京サラヤ(株) スマイル産業(株)			
	Saraya (Dongguan) Hygiene Products Co., Ltd.		2005 11/1	2516-2005-AQ- RGC-UKAS
13485	Saraya MFG. (Thailand) Co., Ltd	本社、開発部門、BC 研 大阪工場、伊賀工場	2006 12/7	Perry Johnson Registrars, Inc. C2006-03284
	2006 12/22		Q1N0612 60114002	
14001	Saraya MFG. (Thailand) Co., Ltd	全社	2008 12/26	C2008-02808
22000	サラヤ(株) 東京サラヤ(株)	食品衛生インストラクター 検査室、各本社食品衛生部	2008 12/8	12510 34993 TMS

環境内部監査

環境内部監査は営業拠点と工場、本社関係も含め全国 65 の監査対象部署を監査チームが、年 2 回各 1 ヶ月程度かけて監査を行います。監査チームは 11 名の主任監査員と 15 名の監査員を中心に編成、監査部署に対して厳しい指摘や必要なアドバイスが提示できるよう監査員の人選に配慮しています。対象部署の対応は、営業所長、各部署長、推進責任者、推進担当者が中心となり、監査チームの質問に対応しながら、指摘事項に対して部署として十分納得した上で対処にあたります。アドバイス事項として、監査対象部署のシステム向上に役立つと思われる意見を積極的に提示しています。

2014年度EMS(Environmental Management System)内部監査実施状況

実施回	期間	実施部署	不適合数	コメント数
第 1 回	1/21~4/3	65	0	49 (重度のコメント1を含む)
第 2 回	6/25~8/7	65	1	64



環境方針

- 地球温暖化防止への寄与活動を推進します。
工場を始めとし、全事業所の使用エネルギー削減を推進します（省エネルギー）。
- 資源節約と再利用の促進を推進します。
1) 事業活動全般において使用する資源を節約するとともに、各種資材について可能なものに関して、再使用、回収・リサイクル促進を推進します。
2) 事業活動全般において発生する廃棄物の削減を推進します。
- 環境負荷の低い製品開発に努めます。
設計・企画開発段階では、製品の環境負荷低減の検討を行います。
- 工場では、環境負荷物質の排出量削減・騒音・振動・悪臭抑制など周辺地域への環境影響に配慮し、地域に信頼される事業経営を行います。
- 地球環境問題の解決は、企業や地域での対応とともに地球規模での対応も必要であるとの認識から、生物多様性にも配慮し、先進国と発展途上国を持続発展可能なビジネスモデルで結びあうため、NPO や諸団体との連携を深めます。

行動指針

事業活動全般（原料調達 - 開発製造 - 管理 - 販売 - 物流 全部門）の環境影響評価を行い、環境方針・目的・目標を定め、1 回/年最高経営者による見直しを実施します。

また、全員参加の活動により、当社環境マネジメントシステムの継続的維持改善を図り、地球環境保護と環境汚染防止に努めます。

当社に関連する環境関連の法規・条例等の国、地方自治体公布の規則を順守するとともに、企業体として受け入れたその他要求事項も順守します。

環境目標

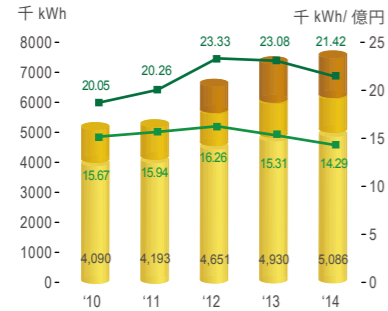
	目標と実績(実績)			2014年の取組内容	2015年目標
電力	2014年 目標	2013年度比 110%以下	達成	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ機器設備の利用促進 エアコン稼働(時間・温度設定・方法)の見直し 白熱電球からLED電球への切り替え ライトダウンキャンペーンの参画 クールビズ、ウォームビズの啓発活動 	
	2014年 実績	2013年度比 103.2%			
エネルギー	2014年 目標	2013年度比 110%以下	達成	<ul style="list-style-type: none"> エコドライブの実施 公共機関の利用、エコ通勤の実施 営業車両の低燃費車導入継続 製品及び部材の集積効率の見直し 生産計画の見直し(効率化) 	2014年度比 108%以下
	2014年 実績	2013年度比 95.7%			
上水	2014年 目標	2013年度比 110%以下	未達成	<ul style="list-style-type: none"> 全社での節水の啓発 冷却水の再利用 高圧洗浄機の導入 大型純水装置の運転による収率の向上 洗浄回数の見直し 	
	2014年 実績	2013年度比 121.6%			
紙資源	2014年 目標	2013年度比 110%以下	達成	<ul style="list-style-type: none"> 裏紙利用、分割印刷等従来活動の継続 文書・記録類のWEB化導入検討 電子機器ツールの活用 会議用配布資料の見直し 業務のペーパーレス化への検討実施 fax発注のweb発注への切り替え 	2014年度比 110%以下
	2014年 実績	2013年度比 81%			
廃棄物	2014年 目標	2013年度比 110%以下	未達成	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の分別、再利用の啓発、実行 QMS活動と連動した取り組み(品質クレームの削減) 	2014年度比 115%以下
	2014年 実績	2013年度比 117.7%			
リサイクル	2014年 目標	リサイクル率 95%以上	達成	<ul style="list-style-type: none"> 納入業者定期訪問による不用品の抑制 有価物としての引き取り業者を選定 	95%以上
	2014年 実績	リサイクル率 95.9%			
持続可能な原料を配慮した商品開発	2014年 目標	1. CB(カーボンバランス)率60%以上 2. OECD法に準拠した生分解性60%以上の確保	達成	<ul style="list-style-type: none"> 個別製品のカーボンバランス率の目標設定の検討 	
	2014年 実績	1. 新製品10/19アイテムがCB率60%以上、国内生産の平均CB率 69.1% 2. 新製品6/9アイテムがOECD法に準拠した生分解性60%以上を確保			
事故・緊急事態対応	2014年 目標	最低年1回の防災訓練の実施事故緊急対応の再検討と対応策の検討	達成	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所にて事故緊急事態を想定して、火災訓練、車両事故削減の取組みを実施した。生産部門では、環境リスクアセスメント計画書を作成。 	
プラスの環境側面の活動	2014年 実績	各事業所、部署毎に「プラスの環境側面(社会側面)」を設定し、年1回以上取り組みを実施する	達成	<p>「いのちをつなぐサラヤ」への意識向上のために、清掃活動、献血活動、地域と連携した活動、環境イベントへの参加、環境教育を実施した。ボランティア休暇を利用した活動も。当社原料供給地の環境保全活動、衛生向上のためのBOPビジネスについての社内教育の実施、サプライヤーへの啓発を実施。</p>	維持継続
生物多様性に関する環境側面の活動	2014年 目標	各事業所、部署毎に「生物多様性に関する環境側面の活動」、「RSPO認証製品に関する活動」を設定し、年1回以上取り組みを実施した。	達成	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性に関する教育訓練の実施 RSPO SCC審査の認証継続 RSPO認証製品の拡充 消費者とのコミュニケーションの実施 	
RSPO認証関連製品に関する活動		関連冊子を全社員とお客様に配布。			
遵守状況の確認	法的要求事項及び組織が同意するその他の順守評価の仕組みの再構築				

冷暖房の設定温度、PCのこまめな電源オフ、お昼休みの消灯、プリント用紙の節約など日々の省エネ・省資源の小さな努力を積み重ねています。

7-2. 2014年度の実績

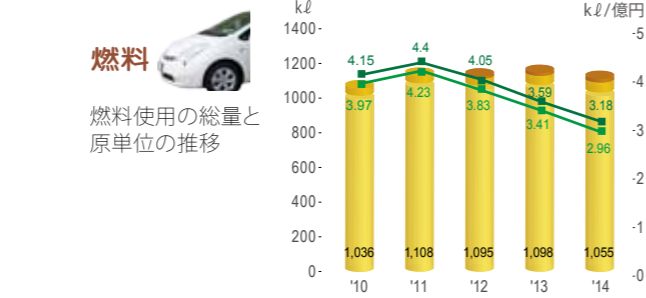


電力
電力使用の総量と原単位の推移



太陽光パネルの増設により製造量が増加しても削減できている。経費節約の努力も反映している。

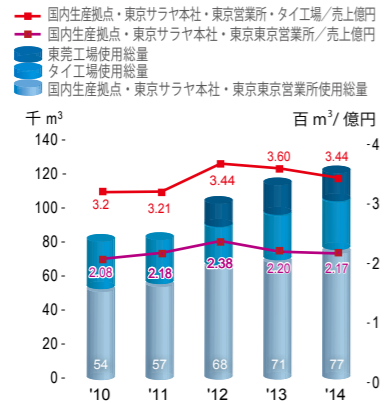
燃料
燃料使用の総量と原単位の推移



ボイラーのエネルギーを重油から都市ガスなどへの移行が進み、生産量の増加分を補っている。



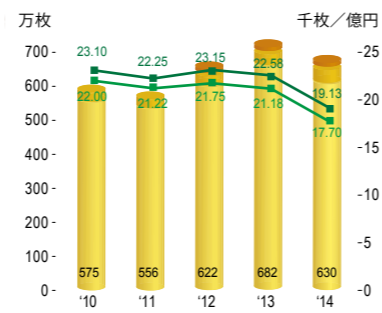
上水
上水使用の総量と原単位の推移



当社製品に含まれる水も含まれているので、工場での生産量の増加に伴い、上水の総量は増加している。原単位は微減している。



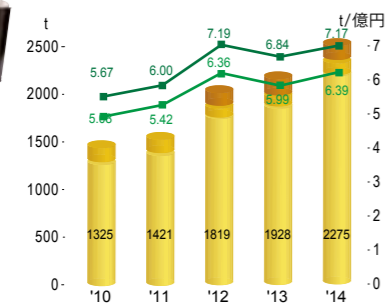
紙資源
複写用紙使用の総量と原単位の推移



全社を挙げての経費節約の努力が節減につながった。売上原単位が顕著に削減できている。



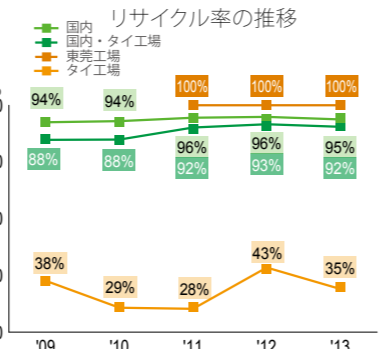
廃棄物
廃棄物排出の総量と原単位の推移



総量の増加については、生産量の増加により廃液、汚泥の廃棄量が増えたことが原因。



リサイクル
リサイクル率の推移



タイ工場の2011年のリサイクル率低下は、洪水の影響もあった。倉庫の商品などが浸水した。国内では安定した高水準を維持できている。

温室効果ガス排出量 (スコープ1・2)

	CO ₂	CH ₄	N ₂ O	HFC (Hydro Fluoro Carbon)	CO ₂ 換算計			
GWP	1	21	310	1,300				
	CO ₂	CH ₄	CO ₂ 換算	N ₂ O	CO ₂ 換算	HFC	CO ₂ 換算	
間接	5,660.0t	0t	0t	0t	0.057t	0t	0t	5,660.0t
直接	2,350.2t	0.040t	0.84t	0.011t	3.41t	0.063t	81.6t	2,436.1t
間接・直接計	8,010.2t	0.149t	0.84t	0.011t	3.41t	0.063t	81.6t	
	CO ₂ 換算合計							8,096.1t

排出した温室効果ガスを、環境省・経済産業省の『温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル (ver3.4)』をもとに算出しました。なお、パーフルオロカーボン(PFC)と6フッ化硫黄(SF6)は排出量ゼロです。温室効果ガスの排出量は、昨年比109%でした。

クリーン・エネルギー、省エネルギー



伊賀工場の太陽光発電
製造棟の太陽光パネル(10kW)に加え、2010年10月には管理棟屋上に多結晶形の太陽光発電パネル(215W)を480枚設置しました(写真上)。103.2kWの出力となります。また、これは2011年2月にグリーン電力発電設備認定を受けました。CO₂排出削減による環境価値は、環境省に納めます。また、2013年内に新たに太陽光発電パネル840枚(250W)設置をしました(写真下)。210kWの出力になります。

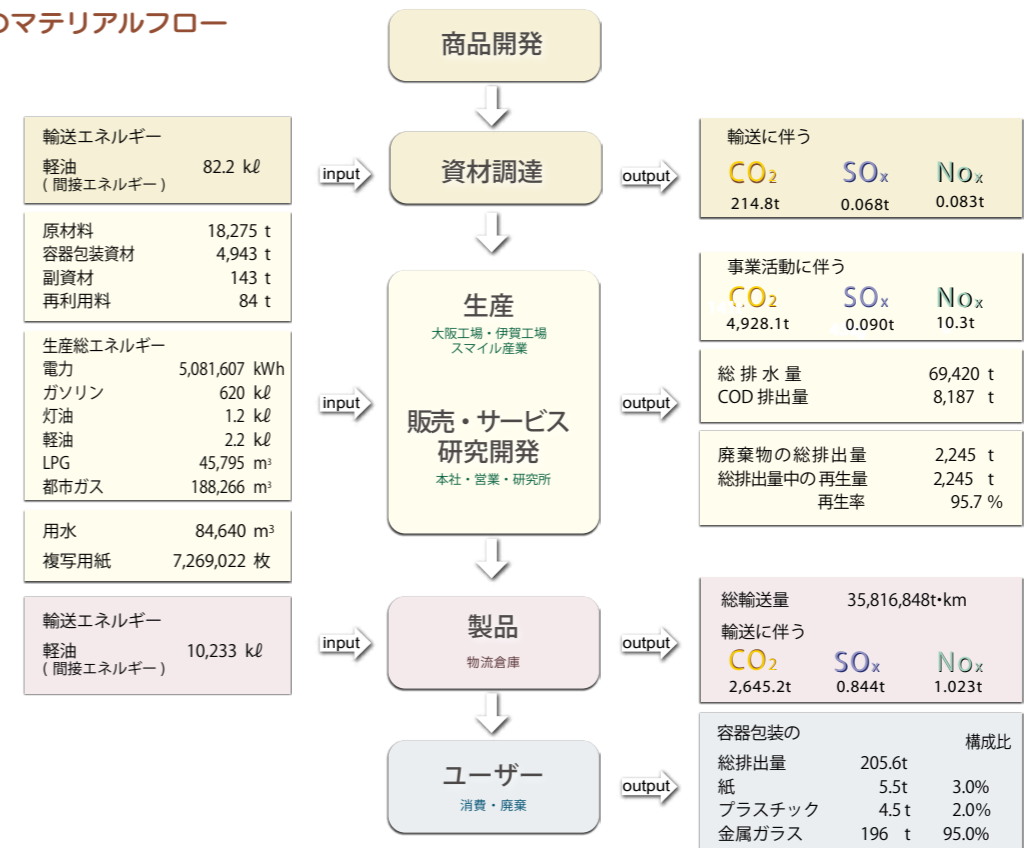


東京サラヤ本社の太陽光発電
屋上に1000mm×1680mmの太陽光パネル84枚を2012年7月末に設置しました。月平均952kWhの出力があり、月平均約19,000kWhの電力使用量の約5%に相当。

伊賀工場と東京サラヤの太陽光発電量

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
伊賀工場	—	11,433	12,078	14,701	16,299	26,255	26,947	28,533	23,910	25,949	23,381	19,987	229,473
東京サラヤ	876	812	971	716	1,157	1,173	1,144	740	840	902	877	779	10,987
	伊賀工場・東京サラヤ計												240,460

2014年のマテリアルフロー



本社や製造拠点、営業所ではEMSだけではなく、独自に様々な角度でCSR活動を実施しています。

7-3. サイトレポート

東京サラヤ本社・東京営業所			
	目標	2014年度実績	自己評価
電力 kWh	214,386	201,338	◎
燃料 ℓ(原油換算)	106,752	69,426	◎
上水 m ³	1,312	1,136	◎
紙資源 枚	414,600	440,000	△
廃棄物 kg	32,898	33,943	×
リサイクル率	90%	89%	△

・廃棄物削減の未達成について
東京サラヤ本社・東京営業所の場合、製造拠点のように本業が廃棄物量を大きく左右します。例えば、冷水器やうがい器の更改が多い年度は、必然的にかなりの商品廃棄が発生します。加えて、東京検査室は全国の食品衛生の検査を請け負っているため、取引が増えれば廃棄物も必然的に増加します。検査室の廃棄物については、予測が出来ません。こうした理由で、削減努力では対応しきれず、廃棄物削減の目標設定が非常に難しい状況にあります。本社域での廃棄物削減とリサイクルの促進によりいっそう努めます。

サラヤ大阪工場			
	目標	2014年度実績	自己評価
電力 kWh	1,900,565	1,811,103	◎
燃料 ℓ(原油換算)	138,499	170,045	××
上水 m ³	53,934	53,275	○
紙資源 枚	162,800	210,875	××
廃棄物 kg	1,451,953	1,514,432	△
リサイクル率	95%	97%	◎

・紙資源削減の未達成について
グループ会社からの裏紙の供給が減り、大阪工場での複写用紙の購買分が増えたことが原因です。改善策としては、紙資源を減らしてデジタル化をさらに推進します。
・燃料の使用量削減の未達成について
バイオケミカル研究所で、研究員が出向先から戻ったことで、使用していた分析機材等（エネルギー源：LPG）が稼働したことから、使用燃料が増加しました。なお、今後も分析機材等の稼働が続くため、LPGの使用増加が見込まれます。

サラヤ本社			
	目標	2014年度実績	自己評価
電力 kWh	341,973	356,472	△
燃料 ℓ(原油換算)	11,484	9,715	◎
紙資源 枚	2,441,806	1,838,080	◎
廃棄物 kg	57,169	60,322	×
リサイクル率	65%	59%	×

・電力削減の未達成について
6月から9月の平均気温が、昨年度より約1℃上昇し、エアコン使用量が増加いたしました。改善の取組みとして、エアコンフィルターの定期清掃、クールビズの啓発活動、冬季のウォームビズの取り組みを強化実施して次年度の目標達成に繋げて行きます。
・廃棄物の未達成について
56期組織変更に伴う、執務室の移転及びレイアウト変更が影響して廃棄物排出量が増加しました。
・リサイクル率の未達成について
上述の廃棄物の排出量増加による影響がありました。改善の取組みとして、廃プラ等の廃棄物を有価物として引き取る業者の再検討や、分別方法について本社域内への周知及び教育訓練を行います。

サラヤ伊賀工場			
	目標	2014年度実績	自己評価
電力 kWh	1,144,237	1,066,866	◎
燃料 ℓ(原油換算)	37,084	47,674	××
上水 m ³	22,232	22,895	△
紙資源 枚	241,948	215,493	◎
廃棄物 kg	443,944	372,724	◎
リサイクル率	98%	100%	◎

・燃料使用量削減の未達成について
製造エリアにて使用しているLPGについて、液製品の増産対応として「夜間稼働（2直勤務）」を継続して実施しており、製造エリア内の温度管理にて使用している「空調」の運転時間が増加したこと。さらに、医薬品の製造・品質管理のために陽圧エリア対応（製造エリア外から埃等の侵入を防ぐため、製造エリア内を外気圧より高気圧に保持）による「空調」の運転を実施しているため、使用量増となっています。改善取組みとして、更なる「こまめな温度管理」「空調フィルター清掃・点検」等を実施し、削減推進を実施致します。
・上水使用量削減の未達成について
液製品の生産量増加に伴う使用量の増加が主な要因となっています。生産の平準化（同一液種での生産）を推進し、ライン洗浄回数削減・ブロー液量等の削減をはかり、更なる生産の効率化を実施致します。

タイ工場 Saraya MFG. (Thailand) Co., Ltd.			
	2012年	2013年	2014年
電力 kWh	1,108,254	1,163,112	1,163,539
燃料 ℓ(原油換算)	34,525	46,920	57,501
上水 m ³	23,473	26,976	28,505
紙資源 枚	286,779	325,267	393,109
廃棄物 kg	99,070	97,593	124,020
リサイクル率	28.2%	42.8%	35.2%

東莞工場 Saraya (Dongguan) Hygiene Products Co., Ltd.			
	2012年	2013年	2014年
電力 kWh	913,652	1,338,504	1,376,874
燃料 ℓ(原油換算)	15,858	19,618	23,257
上水 m ³	13,912	17,828	16,571
紙資源 枚	112,000	116,600	122,000
廃棄物 kg	139,000	177,000	152,000
リサイクル率	100%	100%	100%



献血車で日本赤十字センターの献血に協力
大阪工場・伊賀工場

日本赤十字センターの要請を受け、大阪工場と伊賀工場が献血車を迎え、従業員が献血に協力しました。例年半年に1回のペースで献血車を迎える大阪工場では2014年8月1日に21名と2015年1月29日に20名が献血に協力しました。伊賀工場では2015年2月4日に6名が献血しました(写真)。



全社で緊急事態対応の模擬訓練を実施
生産部門では環境リスクアセスメントの実施

各拠点ごとに想定される緊急事態、地震・火災・漏えいなどを特定して、模擬訓練を実施しました。営業所によっては、模擬訓練と地域の清掃や施設内の清掃を合わせて実施しています。
生産部門では環境リスク低減のために、環境リスクアセスメント計画書を作成しています。写真は、岡山営業所での防災訓練で、火災避難訓練とともに人命救助の訓練が岡山消防署の協力により実施されました。



蝶の繁殖に役立つ植栽 — 都会の生物多様性に貢献
東京サラヤ本社

東京サラヤ本社のある品川区は、23区内でも特に緑が少ない地域です。角地にある本社の道路に面した2面に花壇を設置して、景観の向上に努めています。年4回社員が草花の植え替えをして、四季を通して花が絶えないようにしています。そのため、色々な昆虫が寄って来て、生息しています。
特に、この花壇では甘夏、ゆず、レモンと3種の柑橘類の木が育っているため、毎年アゲハ蝶が産卵に来て、初夏から秋に幼虫が育っています。このように、都会の生物多様性にも役立っています。また、本社近くの聖蹟公園花壇の花植えにもボランティア参加しています。



地域の清掃活動(2014年9月～2015年7月)
サラヤ・東京サラヤ各署

- 9/24 岡山営業所 周辺地域の清掃活動
- 9/27 仙台営業所 秋の草刈
- 9/29 神戸営業所 第57回まちかどクリーン作戦
- 12/3 大阪工場・BC研 スマイル産業 玉手中学校合同地域清掃活動
- 1/26 神戸営業所 第58回まちかどクリーン作戦
- 3/5 阿倍野 SCM 本部 周辺地域の清掃活動
- 3/7 伊賀工場 久米川クリーンウォーキング(写真)
- 4/24 東京サラヤ本社 聖蹟公園清掃活動
- 5/22 京都営業所 鴨川河川敷の清掃活動
- 5/25 神戸営業所 第59回まちかどクリーン作戦
- 6/1 盛岡出張所 聖石川の河川敷
- 6/20 仙台営業所 おらほの公園草刈隊
- 7/3 大阪工場・BC研 スマイル産業 玉手中学校合同地域清掃活動

サプライチェーンの問題としてだけでなく、パーム油と私たちの消費生活との関係について考える機会を提供しています。

7-4. 環境教育

消費者の皆様へ



第8回ボルネオ調査隊

2007年にスタートした消費者選抜のボルネオ調査隊は、現地を訪れ、見て感じたことを毎回レポートしていただいています。2014年度の第7回は9月12～16日に実施いたしました。8月メンバー決定、9月ツアーの実施という流れです。また、毎回サラヤの社員数名が同行して、現地での研修も同時に実施しています。
<http://www.yashinomi.jp/borneo/report/>

地域で



環境・CSR関連ブース出展(2014年11月～2015年7月)

・7/5	旭山動物園坂東元園長トークショー	大阪
・6/13	大阪南港エコフェスタ 2015	大阪
・6/6～7	エコライフフェア 2015 (写真)	東京
・5/15～17	ロハスフェスタ in 淡路島	大阪
・4/24～26	第23回ロハスフェスタ in 万博公園	大阪
・2/14～15	第7回社会貢献しながわ	東京
・2/7～8	ワンワールドフェスティバル (商品提供のみ)	大阪
・11/10～12	あいち・なごや ESD 交流フェスタ	名古屋

望月環境大臣(左から4人目)と東京サラヤメンバー

学校で

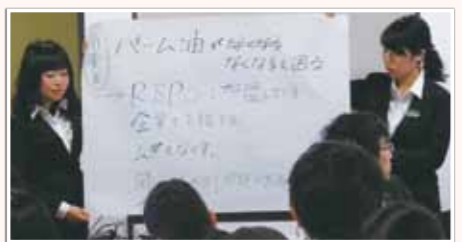


出前授業(2014年8月～2015年7月)

サラヤ本社・東京サラヤ本社

・9/4	品川市立小中一貫日野学園	4年生	東京
・11/14	品川区立城南第二小学校	5年生	東京
・2/20	品川区立台場小学校	6年生	東京
・5/15	お茶の水女子大学付属高校	2年生	東京
・5/22	大阪市立東田辺小学校 (写真)	6年生	大阪
・7/6	品川市立小中一貫日野学園	4年生	東京

従業員に



環境・持続可能性についての新人研修と全社員に資料を配布

2015年の新人研修(サラヤ34名、東京サラヤ20名)が3月29～4月17日に渡り、愛日会館(大阪市)他で行われました。その中で環境教育として、4月2日に調査員の中西宣夫が主要原料であるパーム油・パーム核油の原料供給地の環境問題とその保全について約1時間の研修を行いました。また、ISO全社教育訓練では『サラヤとボルネオの話』と『パーム油白書』を教材に環境教育を行いました。

この10年でEMS活動が定着し、習慣化した中で削減策はやりつくした感があり、惰性に流れている空気もあります。この空気を一新するためにもスコープ3算定へのトライアルに意味があるのではと考えています。

7-5. 環境管理責任者より

ごあいさつ

昨年までの環境管理責任者のベテラン、富田に替わりまして、総務人事本部の石崎が務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い致します。また、大変残念なお知らせですが、創業者の更家章太が1月31日未明に永眠致しました。自然に対する愛着から「環境にやさしいモノづくり」を心掛け、いつも社員に環境への思いを語っておりました。持続可能な社会に貢献できるよう社員一同、創業者の思いを胸に持続可能な企業活動に取り組んでいきたいと思っております。

我社の基本理念は、世界の「衛生・環境・健康」の向上に貢献することです。2012年に創業60周年を機に、さらなるグローバル展開の推進とともに持続可能な社会の構築を目指して、「いのちをつなぐ」をテーマに事業を推進して参りました。

人を大切にする

総務人事面からは、「人を大切にする」というトップの考えのもと、人材を最も重要な経営資源としてとらえ、人材を積極的に活用しビジネスの推進を図ってきました。組織力向上や付加価値の創出など多様な人材の特徴を活かすため、2010年11月よりダイバーシティ推進室を発足させ、人材の多様性を尊重した組織マネジメントを推進しております。

特に、弊社の商品やサービスをご利用いただくのは、一般家庭の主婦の方々や食品加工の現場で働く方々、病院の看護師や介護施設のスタッフの方々、女性が中心であります。購買～生産～販売～開発とそれぞれの職種において女性の考えや目線を反映すべく、女性の活躍を重要視してきました。

その中で、産休・育休等の制度の見直しや女性管理職の育成のため、女性リーダー研修や役員メンター制度を導入し、女性管理職比率を3年で2倍にする中期人材計画を策定しています。まだまだ発展途上ではありますが、「平成24年度ダイバーシティ経営企業100選」に選出いただき、また今年の2月には「平成26年度 大阪市女性活躍リーディングカンパニー」の認証を受け最優秀賞を頂くことができました。今後も女性の活躍推進のみならず、外国人の登用、チャレンジド(障がい者の方々)の活躍、高齢者の方々の活躍推進を継続していきたくと考えております。

積極的な取り組み

ダイバーシティ推進が社内に浸透し、ボルネオの活動やウガンダの「100万人の手洗いプロジェクト」の活動が進む中、ISO14001の活動にも変化が現れてきているようです。サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量の算定、つまりスコープ3についても取り組みをはじめました(p.14に詳細)。

また、共通5項目(電力、エネルギー、紙、水、廃棄物)の削減活動以外に、「プラスの環境側面」として、地域の公園や道路の清掃、ボルネオの活動やウガンダの活動、正しい手洗いについての出前事業、業界団体のスポーツ大会参加、品川区との災害時一時滞在施設運営訓練などの取り組みが全国の事業所・部署単位で積極的に行われています。それが社内広報で毎週のように紹介されています。また、個人でもボランティア休暇を利用するなどして、社会貢献や環境保全活動に家族単位で参加するなど、ワーク・ライフ・バランスが進んでいます。

環境管理責任者
総務人事本部長

石崎隆明



女性活躍リーディングカンパニーの認証書が大阪市民局 女性活躍促進担当部長(当時) 今井 愛子氏(写真右)より、総務人事本部長の石崎(左)に手渡された。

8. ステークホルダーとサラヤ

サプライヤー、企業のお客様、消費者の皆様、従業員、支援している非営利団体などとwin-winの関係を構築しています。

8-1. サプライヤーとサラヤ(グリーン購入)

● 印刷用紙の使用について

FSC森林認証の使用

販促物の印刷用紙の使用に関して、FSC 認証紙を可能な限り使用することを当社 EMS 活動に含め、2007 年 11 月より実施しています。

FSC 森林認証には、次の 10 の原則とその原則ごとの基準(国際基準)が定められています。これは、森林関連法や国際条約の順守や生物多様性保護、先住民の生活との協調、農業や肥料の細かな使用についての取り決め、絶滅危惧種への保護の措置、植林をはじめとする持続可能な森林の管理、天然林の保護などが内容となっています。

10 原則と基準を管理者が順守することを立証した FSC 認証森林から伐採した木材チップを原料に、すべての工程で FSC が認証した工場で製造した印刷物です。

「間伐に寄与する紙」の使用

この持続可能性レポートには、日本国内の間伐に寄与する紙を使用しています。これは、環境 NPO オフィス町内会が運営する「森の町内会」の活動に 1kgにつき 15 円を支援金として上乗せして、「間伐に寄与する紙」を購入するものです。

間伐は、森林の機能低下を防ぎ、CO₂ の吸収力を維持し、また生物多様性の保全にも役立ちます。輸入木材チップより輸送にかかる CO₂ も削減できます。間伐は、岡山県西粟倉村の森林で行われており、政府からの補助金を足しても不足する資金を支援します。



サラヤをはじめ関西の企業が「間伐に寄与する紙」を使用した重量に応じて、岡山県西粟倉村の森林で間伐が行われます。伐り出された間伐材は、日本製紙岩国工場および日本大昭和板紙株式会社 大竹工場で製紙原料となります。

FSC 認証の 10 原則

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 法律と FSC の原則の順守 | 6. 環境への影響 |
| 2. 保有権、使用権および責務 | 7. 管理計画 |
| 3. 先住民の権利 | 8. モニタリングと評価 |
| 4. 地域社会との関係と労働者の権利 | 9. 保護価値の高い森林の保存 |
| 5. 森林のもたらす便益 | 10. 植林 |

● 備品・副資材のエシカル消費の推進

グリーン購入ネットワークに加盟

サラヤは、1996 年より GPN (グリーン購入ネットワーク) に加盟しています。什器備品をはじめ、電気製品などについても、できる限り GPN のグリーン購入ガイドラインに沿った購入をするよう取り組んでいます。東京サラヤの竹内光男が 2014 年より代表理事、同時に国際委員会の委員長に就任しております。



制服・備品

女子制服はエコマーク商品を採用しています。使用後の制服・作業服の廃棄については、本社で一括回収したものを納入会社の協力の上、サーマルリサイクルや自動車の内装材や吸音材として再利用されるようにしています。

本社域では総務部門が購入管理している什器備品については、グリーンマーク商品を購入しています。文具消耗品についてもグリーン購入を勧めています。

トナーカートリッジの再利用

使用済トナーカートリッジにトナーを充填し、再使用する事業をグループ会社などで運営しています。全社のプリンターやコピー機の使用済カートリッジは可能な限りトナーを再充填し、再使用しています。

消費者庁「倫理的消費」調査研究会

2015 年 5 月消費者庁によって、消費者が主体となって選択・行動できる社会にするため、「倫理的消費」調査研究会が立ち上げられました。これは、基本的な環境配慮はもとより開発途上国などでの不当な労働搾取をしない「フェアトレード」も含めた持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development) 普及啓発も同時に進めるものです。

同研究会メンバーに東京サラヤ食品衛生部から 1 名が選出され、同研究会事務局にはサラヤの総務本部から 1 名が出向しています (<http://www.caa.go.jp/region/index13.html> に詳細)。

サラヤは、創業以来「人と地球にやさしい」商品創ることを、一貫して実践してきました。「人にやさしい」は安全で安心な高品質を維持していることで、品質保証の本質となります。

8-2. お客様とサラヤ(品質保証と顧客満足)

品質マネジメントシステム

サラヤでは、まず生産拠点である大阪工場と伊賀工場で 1999 年 12 月に ISO 9002 の認証を取得しました。本社営業所も含めた全社では 2002 年に ISO 9001 の認証を取得しています (p.26 参照)。「品質方針」は右の通りです。

内部監査は年 2 回、ISO14001 と同時に実施していますが、第 1 回の内部監査は、2014 年の 1 月 21 日～4 月 3 日の期間に、65 部署、主任監査員 10 名と監査員 17 名で実施しました。第 2 回は 2014 年 6 月 25 日～8 月 7 日の期間に 65 部署を主任監査員 11 名と監査員 15 名で実施しました。実施状況は、下表の通りです。



2014年度QMS(Quality Management System)内部監査実施状況

実施回	期間	実施部署	不適合数	コメント数
第 1 回	1/21~4/3	65	0	111
第 2 回	6/25~8/7	65	0	92

顧客満足

サラヤでは、CRM (Customer Relation Management) 室が消費者の方のお声をいただくコールセンターや企業のお客様の窓口であるお客様事務センターに寄せられるご意見や苦情、さらに営業やサービスメンテナンスの担当者が承ったご意見などの情報管理をして、経営層や開発部門、品質保証部に適切に伝え、製品・サービスに反映させています。

CRM 室で行われた情報集約から傾向分析を経て、経営層や営業・開発・品質保証の各部門に情報を共有し、ご意見・苦情への具体的対応を進めております。製品の品質に問題が発見された場合は、品質保証部が中心となって全社で協力し、原因調査から再発防止策を立案し実施するだけでなく、お客様への情報提供を行っています。

お客様の声から生まれた商品

また、ご意見だけでなくご希望も反映し、商品化をしています。以下は、2015 年 3 月に発売された商品ですが、その一例です。

人気の高い洗濯用せっけん No.1^{*}のアラウ・ブランドに加えて、洗濯槽クリーナーを作りたいというリクエストをたくさんいただきました。そのお客様のご要望を商品化した

品質方針

地球環境の保全、衛生、健康向上への寄与を目指し、お客様の信頼とニーズにお応えし、満足していただける製品とサービスをお届けする。

この為に、設計開発から製造・管理・流通・販売・サービスの提供に至る全社・全部門において顧客志向の観点から業務自己革新を図ると共に、当社全製品・サービスに関してお客様からの声を体系的かつスピーディーに収集分析し問題点を明確にして、速やかにその問題解決を実行する。

さらに、顧客要求事項、法的要求事項を含む種々要求事項への適合を図ると共に、全社・全部門においては、経営方針・品質方針を目標展開した「部門目標」到達度に加え「その他不具合点」などを常時監視分析し、システムの有効性を維持し、かつ継続的改善を図るものとする。

のが「アラウ・洗濯槽クリーナー」です。「アラウ・洗濯槽クリーナー」は、ツンとした臭いが気にならない酸素系の洗浄成分を採用しています。月 1 回の使用で、洗濯槽に付着した見えないカビ・臭い・汚れをしっかりと除去します。

合成界面活性剤、塩素系洗浄剤、合成香料、着色料、保存料無添加で安心なうえに、スペアミントの天然精油を配合しているので、洗濯槽にこもった臭いもスッキリ解消できます。清潔な洗濯槽で洗濯ものの清潔さも保たれます。

*: 赤すぐくちコミランキング ベビー用洗濯洗剤&洗濯せっけん部門(リクルート調べ)



アラウ・洗濯槽クリーナー

原料供給地の生物多様性に関わる NGO などの環境関連の団体、本業の衛生に関わる団体などを支援しております。

8-3. 非営利団体とサラヤ

NPO 法人 ZERI ジャパン




“Zero Emissions Research & Initiatives” 略して ZERI。これは廃棄物を再利用して限りなくゼロに近づけ、物資が循環する生産・消費形態を実現するための研究機構です。1994年にグンター・パウリが国連開発計画 (UNDP) とスイス政府の出資によってスイスのジュネーブに ZERI 財団を設立しました。

このゼロ・エミッション構想を出発点として、日本における環境教育の啓発と実践、産業クラスター（連環）の構築、会員企業への情報提供や技術指導などを行い、循環型社会を実現するために 2001 年に ZERI ジャパンが設立されました。

理事長を更家悠介（サラヤ社長）が務める他、資金・人材両面から支援し、事務局も東京サラヤ株式会社本社内に置いています。2014年に「ZERI 創立 20 周年記念シンポジウム」を日本で開催しました。シンポジウムの詳細は p.43 をご参照ください。

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン




エグランタイン・ジェブ女史は「人類の本当の敵は、洋の東西を問わず、貧困・不衛生・病気・救いようのない無知である」と確信し、セーブ・ザ・チルドレンの活動をはじめました。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは 1986 年に設立されました。設立の際、弊社社長の更家悠介も深く関わっています。

現在は、ウガンダなどのアフリカ、アジア諸国の教育や栄養改善、保健衛生などの援助を行っています。サラヤでは、少しでも世界の子どもの衛生環境が良くなるようにと願って、この活動に協賛しております。

公益社団法人 日本 WHO 協会




本業の衛生の分野においても、非営利団体の支援をしています。社団法人日本 WHO 協会は、WHO 世界保健機関憲章の精神を広く普及徹底し、その事業目的達成のために設立され、世界中の人々と共に健康の増進と保護に取り組んでいる団体です。

近年、元大阪市長の関淳一氏が理事長に就任し、活発な活動を再開しています。サラヤは、協賛企業であるとともに理事に更家悠介（サラヤ社長）が名を連ねているなど、様々なかたちで活動を支援しています。

第5回アフリカ開発会議での日本WHO協会主催のサイドイベント 2013年

ボルネオ保全トラスト




ボルネオ保全トラスト (Borneo Conservation Trust) は、2006 年マレーシア サバ州より NGO として認可され、事務所をコタキナバルのサバ州野生生物局内に置き、設立されました。設立以前よりサラヤが大きく関与しています。2013 年 9 月に更家悠介（サラヤ社長）が副理事長 (Trustee/Vice Chairman) に就任。

目的はキナバタンガン川など沿岸の熱帯雨林を保護区にする緑の回廊プロジェクトの推進、BES (ボルネオ エレファント サンクチュアリ) の野生生物レスキュー・センターの建設 (p.13 詳細)、そしてアブラヤシ プランテーション開発で棲息に困窮し、私有地に入り込んだボルネオゾウ、オランウータンを捕獲して、必要ならば治療し、保護区に移動させる活動などです。これは、サバ州野生生物局を支援する形で取り組んでいます。

また、現地での生物多様性保全の啓発活動にも取り組んでいます。ハッピーエレファントやヤシノミ®洗剤のシリーズ商品の売り上げ1%で支援しています。http://www.borneotrust.com/

左より、BCT 名誉幹事のローレンシヤス博士、BCT 副理事長の更家悠介

**特定非営利活動法人
ボルネオ保全トラスト・ジャパン**




ボルネオ保全トラスト・ジャパンは、BCT の活動を日本から支援するために設立されました。日本の動物園とのコラボレーションなど活発な活動をしています。サラヤなど企業の支援や、旭山動物園と SWD (サバ州野生生物局) の協力のもと、BES の第一期工事完成に中心的役割を果たしました。

2013 年秋以降の活動は、BES のパドックの屋根の追加工事、水道の敷設などの支援をしています。また、2014 年 11 月 13 日にサラヤがスポンサーとなり、「ボルネオの生物多様性保全に関わるシンポジウム」を BCTJ が主催しました (p.43 に詳細)。事務所は東京サラヤ内にあり、BCT と同様に支援しています。http://www.bctj.jp/

国連大学でのBCTJ主催シンポジウム 2014年11月

8-4. ミラノ国際博覧会とサラヤ 食がテーマの博覧会で日本館に協賛するとともに食品衛生をサポートいたしました。

ミラノ万博日本館に協賛

「2015 年ミラノ国際博覧会」(略称「ミラノ万博」)は 2015 年 5 月 1 日 (金) ~ 10 月 31 日 (土) にイタリア・ミラノで開催されました。このミラノ万博のテーマは「地球に食料を、生命にエネルギーを (Feeding the Planet, Energy for Life)」で、「食」がテーマの史上初の万国博覧会です。

日本館は、「Harmonious Diversity - 共存する多様性 -」を出展テーマに、参加国の中で最大級の規模で日本の農林水産業や食にまつわる様々な取り組み、日本の食や食文化の技などを紹介しました。「本格日本食レストラン」と「フードコート」、「物産展」を展開し、日本食と共におもてなしを提供しました。サラヤは日本館の協賛企業です。


食がテーマの博覧会で日本館に協賛するとともに食品衛生をサポートいたしました。

において日本で初めて、食品安全マネジメントシステムの国際規格である ISO22000 の認証を取得した食品衛生のバイオニア企業であるサラヤが、出展企業の衛生面を総合的にサポートしました。

衛生面のサポートとともに、日本館内のレストラン、フードコート、イベント広場で使用される洗剤や消毒剤を提供しました。7 月 11 日 (水) に開催の「ジャパンデー」でも、厨房で使用する洗剤や消毒剤を提供している他、日本料理人に対して現地ミラノで手洗い方法や菌・ウイルス等の衛生講習を行い、衛生面をサポートしました。

食品衛生をサポート

「食」に関わる、安心・安全を確保するための「衛生管理」は必須事項であり、国際基準の衛生管理が求められます。2008 年にフードチェーンの「サービス提供者」カテゴリに



サラヤ開催のミラノ万博出店企業への HACCP (食品衛生) 講習会

従業員がいきいきと、持てる力を存分に発揮できる会社にするため、制度や職場環境の改善に努力しています。

8-5. 従業員とサラヤ

人事

多様な人材が最も大切な資源

自然界で生物多様性がその生態系の強さそのものであるように、企業にとっても人材の多様性がこれからの時代を生き抜くための最重要ファクターとなっています。

特に、サラヤ商品の最終的なユーザーは食品衛生や医療衛生でも女性である比率が高く、またご家庭用では購買層も女性の比率が圧倒的に多いので、開発部門を中心に発案や意思決定に女性が加わるよう女性の登用を多くするよう心がけています。ここ数年の新卒採用でも男女のバランスを考慮した採用を進めています。

産休についても、その間の労働力のロスというマイナス面だけでなく、新たな多様性の獲得の機会であると積極的に捉えています。さらに、組織内の多様性の強化のためにも「ジョブローテーション制度」を新たに採用し、個々の部署内での多様性強化促進に活かせるよう期待しています。

人事制度

従業員一人ひとりが積極的に業務に取り組み、仕事を通じて成長し、誇りとやりがいを感じられるよう、目標と評価制度による成果・プロセス評価、優良社員表彰・成果表彰等の各種表彰制度、専門業務型裁量労働制など様々な人事制度・施策に取り組んでいます。

2007年4月からはジョブグレード制度を導入するとともに、従業員意識調査や各事業所訪問など、従業員の生の声を吸い上げ、参考にすることを心がけています。また、それぞれの段階に応じた教育制度を充実させています。2015年には前述の社内ジョブローテーション制度を導入し、部門を超えた人材交流、人材活用を可能にするとともに個人のキャリアデザインの実現の機会を提供し、部署の活力と個人の自主性を引き出す機会を制度として導入しています。

・高齢者雇用

従来から、60歳定年後の再雇用を積極的に推進してきましたが、2006年3月に「定年退職者再雇用制度」を導入し、希望者全員について、60歳定年後も最長65歳になるまで再雇用しております。2013年10月現在で、100名程度が、営業・生産等の様々な部署で後進の指導・育成に活躍しています。

・障がい者雇用

2014年6月現在23.5名の障がい者が営業・生産・事務等の様々な職場で活躍しています。サラヤ株式会社では、2014年6月時点で2.10%、法定雇用率の2.0%を上回り法定雇用率を達成しています。今後も、関係各機関の協力を得て積極的に障がい者の雇用に努めます。

・男女雇用機会均等

前述のように女性の力を十分に活用できるように、採用、昇進、昇格、昇給、人材配置、教育研修機会等あらゆる人事処遇において性別による(制度上、あるいは内在的な)差別がないよう鋭意努力しています。性別に関わらず高いプロ意識と知識、モラルなどの素養を持った自立・自律型人材を積極的に採用・育成するよう努力しています。

・外国人雇用

多様な考え方・価値観を許容できる組織であり、それを開発や経営に適切に反映していくことが大切であると考えています。そのために、異なる文化的背景を持った外国人採用活動を積極的に行っています。また、グローバル化促進のために管理職にも積極的に外国人を抜擢しています。

2014年10月現在の外国人従業員数は19名で、出入国管理及び難民認定法や関係諸法規を遵守し、適切な雇用管理を実施しています。

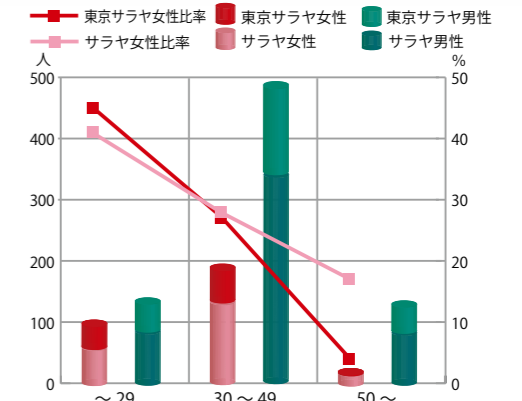
・ダイバーシティ推進室

ダイバーシティ(多様性)とは、性別、年齢、人種、国籍、出身地域、背景となる文化、キャリア、学歴、家族構成、嗜好、ライフスタイル、宗教、障がいの有無などです。

サラヤは多種多様な人材を積極的に登用し、適材適所に配属、組織の活性化や生産性の向上、競争力の強化に活かせることを目指しています。多様性の推進を専門的に取り組む組織を総務人事本部内に設けています。

ダイバーシティ推進室の役割と活動

- ・女性リーダー研修の実施
- ・誰もが働きやすい職場・環境制度の整備
- ・高齢者のためのキャリアプラン研修の実施
- ・メンタルケア、ハラスメントへの相談対応



サラヤ・東京サラヤ正社員男女比較 2014年10月現在

年齢層	女性				男性			
	~29	30~49	50~	全年齢層	~29歳	30~49	50~	全年齢層
正社員	60	136	17	213	87	351	85	523
有期雇用	44	238	139	421	56	69	66	191
計	155	456	168	779	203	576	214	993
2社計男女比	43.3%	44.2%	44%	44%	56.3%	55.8%	56%	56%
サラヤ平均年齢	41.9才				42.1才			
サラヤ平均勤続年数	7.5年				11.2年			

出身国別・職種別外国人従業員数 2014年10月現在

出身国別	職種別			
	出身国別	職種別		
アジア	中国	11	研究開発	8
	フィリピン	2	機器設計	1
	インド	4	海外営業	4
ヨーロッパ	韓国	1	海外財務	1
	ロシア	1	生産	2
北米	ウクライナ	1	国内営業	1
	アメリカ	1	品質管理	1
			翻訳通訳	1
			商品企画	1
			購買	1
			計	21

従業員の内訳と正社員・有期雇用社員・パートタイマーの比較 2014年10月現在

	役員	正社員	嘱託	準社員	パートタイマー	直接雇用計	派遣社員数	合計
東京サラヤ	29歳以下	87						
	30~49歳	202						
	50歳以上	6	47					
	計	6	336	15	3	36	396	6
サラヤ	29歳以下	147						
	30~49歳	487						
	50歳以上	19	102					
	計	19	736	61	40	348	1,204	127
スマイル産業	29歳以下	1						
	30~49歳	11						
	50歳以上	1	2					
	計	2	14	0	7	44	67	0
合計	27	1,086	76	50	428	1,667	133	1,800
	社会保険	加入	法定の加入要件を満たせば適用					
	産前・産後休業		法定通り適用					
	育児休業	原則：対象の子どもが1歳に到達する日の前日迄 例外1：保育園に入所できない場合、その後6ヶ月延長 例外2：例外1の状況で会社が認めた者に限り、その年度末まで再延長						
	定年退職金	あり	なし					

実施している教育・研修

社員教育制度	内容
目標と評価制度	自身で設定した目標への達成度とそのプロセスを評価し、それを処遇に反映させるとともに、目標設定段階では、上司との面談を経て各自「目標と評価シート」を作成し、評価内容を本人にフィードバックすることにより、教育、育成に活用していく制度。
内定者教育	入社までに約3回の集合研修、内定者SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)等を通じて実施するもの。集合研修では、内定者自らが考える理想の社会人像の実現に向けた取組みの議論・実践や、最低限必要なビジネスマナーを学ぶとともに、先輩社員との交流を通じ、「自ら考え行動する」ための準備教育を実施。
新人研修	入社時に約3週間の研修期間を設け、社会人としての心構え、ビジネスマナー、各部署の役割など各講師による説明や工場実習を通じ、会社への理解を深める。また「自ら考え行動する」ことの実践として、入社式での宣誓文の作成や新入社員自らが新商品や新販売手法などを企画、プレゼンテーションを行う「ビジネスプラン発表会」なども実施。
サラヤフライトプラン	新卒社員を対象の自ら考え行動する自立・自律型社員の育成を目的とした、3ヵ年育成・定着プログラム。年1~2回の集合研修等や所属部署と連携したフィードバックを実施。
階層別教育	自らが組織に前向きな活力を与え、部下の個性や能力を最大限に発揮させていくことを目的としたマネジメント研修(新任管理職対象)や、事業推進力と組織活性化の両面で能力を発揮することを目的とした幹部研修(次期経営層候補対象)。
職種別教育	より実践的な知識の習得・向上を目的として、食品衛生インストラクターのための「インストラクター研修」、メディカル部門を対象とした「MR研修」等を実施。
全社ISO活動教育訓練	全社で年数回部署ごとISO活動の教育訓練を実施。活動実績の評価と反省、今後の目標の確認など実施。また、環境負荷低減のために現場から様々な改善の提案が出されるなど、環境教育の場としても有効に利用。
ダイバーシティ教育	多様な人材を尊重し、組織の発展や生産性向上につなげて行くための個別テーマの研修、女性リーダー研修、社内グローバルセミナー、ハラスメント防止研修等。



従業員が健康的に、快適に働ける環境づくりに努力しています。

福利厚生

仕事と家庭の両立支援

仕事と育児、介護の両立のための短時間勤務制度、時差出勤制度など、様々な支援制度を設けているほか、育児のための退職後の再雇用や在宅勤務の支援など、育児や介護をしながら就労する従業員の雇用環境の整備に積極的に取り組んでいます。過去3年間の育児と介護に関わる制度利用の実績は下記の通りです。

・子育て

子育て期に一定期間育児に専念できる休暇・休業制や、職務負担を軽減して、子育てを支援しています。仕事と家庭の両立を応援します。

産前・産後休暇、育児休業、育児短時間勤務制度、育児時差出勤制度、所定外労働免除、時間外労働・深夜勤務の制限、看護休暇など。

・介護

介護を必要とする家族を持つ社員が仕事をしながら介護ができるよう支援する制度です。介護休業、介護短時間勤務、介護時差出勤制度、時間外勤務・深夜業務の制限など。

サラヤ・東京サラヤ過去3年の育児介護休暇取得実績2011年11月～2014年10月

	女性取得者	男性取得者	男性取得可能者
産前産後休暇、育児休業	41	2	88
介護休業	4	1	

・男性の育児参加

急速な少子化の進行は、社会経済全体に極めて深刻な影響を与えます。今、国・地方公共団体・企業などが一体となって対策を進めていくことが必要とされています。このような背景の中でサラヤは、女性社員だけでなく男性社員も子育てや介護をしながら働き続けることができる組織・職場環境づくり（ワーク・ライフ・バランス）のための働き方の見直しなど、次世代育成支援対策への取り組みを進めています。

ワーク・ライフ・バランス

仕事とプライベート双方の充実が、相乗効果や好循環を生み出すという考え方がワーク・ライフ・バランスです。サラヤでは、ゆっくり充実した休日を過ごして、仕事に戻った時により集中して良い仕事ができるように、特別休暇制度を設けています。

休暇のためのリゾート会社やスポーツクラブと契約し、従業員が利用できるプログラムも充実させています。プログラムは適切かつ機会の公平さを基準に策定することを心掛けています。また、社内アンケートを反映して、従業員の満足度の向上に努めています。

ワークライフバランス特別休暇

休暇名	年間日数	目的	例
ボランティア	5日	地域社会への貢献のための奉仕活動に際し、取得できる(政治・宗教に関する活動は除く)	・公共団体・自治会等の会議・行事の参加 ・地域消防団活動、清掃活動、防犯活動、安全活動への参加 ・国体・公認団体の競技会等の参加 ・NPO等への参画・支援等 ・児童・福祉施設等への教育・支援活動 ・その他所属長が認めた地域社会との交流等の関する活動
自己啓発		社会人としてのスキルを磨くための行動に際し取得できる	・講演会、セミナー等への参加 ・展示会、個展、見本市等への参加・見学 ・資格取得の講習日、受験日 ・異業種交流会の参画・参加
メモリアル	5日	本人・家族等の記念日や節目の日に際し、取得できる	・慶弔休暇に付加(延長) ・誕生日、結婚記念日 ・命日、法事 ・その他所属長が認めた重要な行事、イベント等
ヘルスケア		本人や家族の健康維持管理・増進行動に際し、取得できる	・定期健診再検査(精密検査) ・人間ドック ・定期的通院等
リフレッシュ	2日	連続公休日の前後(夏季・GW等)に付加し、休暇延長によるリフレッシュ促進のための休暇	生産部門：生産本部の定める日を指定休暇とする その他部門：所属ごとでの交代・選択性の休暇とする

次世代育成支援についての認定

2006年8月、大阪府から「男女いきいき・元気宣言」事業者に認定、登録されました。(http://www.pref.osaka.jp/danjo/ikiiki/com_59)

また、2009年5月大阪労働局より次世代育成支援企業認定マーク(くるみん)を取得いたしました。東京サラヤは2014年8月に同認定を取得しました。



「女性活躍リーディングカンパニー」認証

大阪市では、女性にとって働きやすい職場環境の整備に積極的に取り組む企業などを、大阪市が一定の基準に則り認証し、当該の企業などが社会的に認知されることで、その取り組みが広く普及するよう、「女性活躍リーディングカンパニー」認証を実施しています。

サラヤは、この「女性活躍リーディングカンパニー」認証において、認証レベル2つ星を、期間2015年2月13日から2018年2月12日として、大阪市より受けました。



また、認証企業の中から、先進性に富む企業や地道な努力を続けている企業等を表彰する「大阪市女性活躍リーディングカンパニー市長表彰」の平成26年度表彰について、最優秀賞2社、優秀賞4社が決定され、サラヤは2015年3月18日に大阪市より「最優秀賞」の表彰を受けました。(写真下)

講評は、「女性の活躍促進を経営方針としたトップメッセージ、女性管理職登用の中期計画策定等、方針が明確に示されており、ワーク・ライフ・バランス特別休暇等の措置も充実している。男性の育児等への参画支援も、中心的な役割を担う推進者のリードにより取り組まれている。」となっています。

役員メンター制度

ダイバーシティ推進の施策である『女性活躍推進・経営参画の推進』の取り組みを、①能力開発②意識改革③風土づくりの3本柱を軸に展開しております。その中の①について、役員8名(大阪：5名 東京：3名)をメンター(指導者)として、東西29名の女性リーダーをメンティー(指導を受ける方)として実施します。会社の将来を担う女性管理職を育成するため、対象の



平成26年度「大阪市女性活躍リーディングカンパニー市長表彰」の「最優秀賞」受賞の表彰式で、更家悠介(サラヤ社長)による受賞の挨拶。

女性リーダーが自身の管理職としての自覚や経験値の向上に役立つアドバイスや指導などを与えるための機会とします。

安全衛生と休業災害度数率

従業員の健康管理と職場環境の整備を目的に、産業医、衛生管理者、総務本部で構成する安全衛生委員会を定期的に開催、定期健康診断のフィードバックや労災の防止など安全衛生の向上に努めています。2014年度のサラヤの労働災害発生状況は、いずれも厚生労働省による平成26年度労働災害動向調査及び労働災害統計の平均値を下回る数字でした。

以下は2014年度のサラヤの労働災害の状況を示す数値と()内は全国平均です。休業災害度数率は0.90(0.91)、休業災害強度率は0.032(0.07)、年千人率は0.9(全産業2.3、化学工業1.6)でした。

- ※1: 度数率=労働災害による死傷者数÷のべ実労働時間数×1,000,000
労働災害による死傷者数は対象年度労災申請対象者の中で有給を除く休業1日以上死傷者数
- ※2: 強度率=のべ労働損失日数÷のべ実労働時間数×1,000
災害発生翌日以降少なくとも1日以上は負傷の労働できない有給を除く期間
- ※3: 年千人率=1年間の死傷者数÷1年間の平均労働者数×1,000
(死傷者数は休業4日以上)

ハラスメント相談窓口

差別や偏見のない明るい職場の維持、人権に対する意識向上を目的に、全社でセクシャルハラスメントやパワーハラスメント防止の意識を高め、また問題を早期に解決できるように、「ハラスメント相談窓口」を設定しています。

また、正社員、嘱託社員、準社員、パート・アルバイト、派遣社員等、サラヤにおいて働いているすべての者のみならず、顧客、取引先の人員などに対しても、広く適用される「セクシュアルハラスメントの防止に関する規定」を制定し、具体的な取り組み内容を明確にしています。

相談方法やプライバシーの保護も明確にし、従業員にとって利用しやすい環境になるように、十分配慮しています。実際の問題発生時には、相談窓口において既定のマニュアルに則った対応の実施とともに、専門家である顧問の弁護士・社会保険労務士の社外顧問アドバイザーと連携を図りながら、厳格な対応をはかる仕組みを構築し、体制を整えています。



2015年3月7日に大阪市が主催した「女性が輝ける社会の実現を考える」フォーラムで小堀綾子(サラヤ人事部)が事前に行われたワークショップで作成した企画を発表。(写真中央)

サラヤが支援している非営利団体と協働して、様々なイベントに協賛・参加しています。

8-6. 環境・CSRコミュニケーション

受賞



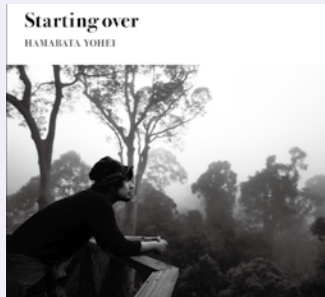
『持続可能性レポート』2014年版が生物多様性特別優秀賞を受賞
第18回環境コミュニケーション大賞

環境省と地球・人間環境フォーラムが主催する第18回環境コミュニケーション大賞で、弊誌2014年版が「生物多様性特別優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞)」を受賞いたしました。

- 受賞作品講評 -

事業特性に沿った明確な「コミットメント」を打ち出している。Biodiversity in Good Companyのリーダーシップ宣言の署名を継続し、その実施が具体的に報告書内に示されており、同社の本業全般が深く生物多様性に配慮した活動となっていることが理解できる。例えば、「緑の回廊計画」を提案し納入業者に持続可能な原料取り扱いを促し、環境負荷の低い界面活性剤の商品化を行っている。また、PRTR対象の界面活性剤の代替品として知られる物質の生分解性が悪いことから、独自の指標(カーボンバランス)を採用し、同社商品の環境負荷の管理を行っているのも評価できる。

ラジオ番組から



チャリティ CD 「Starting over」
浜端ヨウヘイ

生物多様性を中心に「様々なエコ」の情報を提供しているFM大阪「LOVE FLAP」のコーナー「サラヤECO FLAP」(サラヤがスポンサー)で浜端ヨウヘイ(シンガーソングライター)のボルネオレポートが2015年3月24日より各週火曜日に6回にわたって放送されました。この取材ツアーを通して氏が触れた生のボルネオ島の魅力や環境・社会問題をメッセージとして楽曲、「Starting over」他3曲を書き下ろしました。これをサラヤの公式通販にて限定販売(価格1,000円)しています。CDの売上げは全て、ボルネオ保全トラスト(BCT)に寄付されます。ボルネオの動物や鳥の鳴声、虫の音など熱帯雨林の音が曲に使われています。

海外のサイト



'Biodiversity in Good Company' Initiative
プログレスレポートとニュースレター

ビジネスと生物多様性イニシアティブ(Biodiversity in Good Company'イニシアティブ)では、加盟企業のリーダーシップ宣言のプログレスレポートや生物多様性保全に関わるトピックスを<http://www.business-and-biodiversity.de>にドイツ語・英語・日本語で掲載しています。また、ニュースレター(メールマガジン)をヨーロッパを中心に配信しています。左は、2015年1月号で、サラヤを特集したものです。

<http://www.business-and-biodiversity.de/index.php?id=1147>

テレビ出演



報道番組「日経プラス10」に出演
ウガンダでの活動などについてインタビュー

BSジャパン放送の「日経プラス10」は、日経グループとTV東京による報道番組です。2014年10月1日放送番組のトークコーナーに更家悠介(サラヤ社長)が出演いたしました。

電子絵本



電子絵本
『しあわせなゾウ』

Happy Elephant サイトに、電子絵本「しあわせなゾウ」を掲載しています。
<http://www.happyelephant.jp/book/>

シンポジウムなどのイベント



ZERI 創立 20 周年記念シンポジウム
—ゼロエミッション構想からブルーエコノミーへ—

1994年にZero Emission Research and Initiativeは日本にある国連大学からグンター・パウリによってはじめられました。この20周年にあたる2014年11月12日に国連大学ウタント国際会議場でNPO法人ZERI ジャパン主催により「ZERI 創立20周年記念シンポジウム」を開催しました。サラヤと東京サラヤが特別協賛しています。

ブルーエコノミーの一例としてグンター(写真左)が示したストーン紙は、彼のアイデアで石から作られており、森林破壊をしない紙だ。彼の右に居るのは、右にあるストーン紙の絵を描いた画家である。

創始者自らが、イニシアティブから「ブルーエコノミー」に発展した持続可能なビジネスのあり方を提言した特別講演の他、山本良一氏(東京大学名誉教授)、理事長の更家悠介(サラヤ社長)などが講演しました。



ボルネオの生物多様性保全に関わるシンポジウム
—緑の回廊の進展と重要性—

2014年11月13日(木)国連大学本部5階エリザベス・ローズ会議場で開催の「ボルネオの生物多様性に関わるシンポジウム」の sponsor 他支援をいたしました。2014年には、ボルネオ サバ州でのこの活動が10周年を迎えました。

マレーシアからサバ州野生生物局の元局長ローレンシャス博士を招き、ボルネオ保全トラスト・ジャパンの関係者とともに、活動の報告とこれからの進展と緑の回廊の重要性について講演致しました。



ESD ユネスコ国際会議パラレル・イベント
Education for Sustainable Development

2014年11月に、ユネスコと日本政府の共催により、名古屋市で「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が開催されました。そのパラレル・イベントとして同9日に「International Conference on Higher Education for Sustainable Development: Higher Education Beyond 2014」が名古屋大学の豊田講堂で開催され、「Panel 2. Engagement Across Boundaries/ Working with Critical Sectors」のパネリストとして、更家悠介が登壇しました。唯一の民間セクター登壇者でもあったので注目を受け、質問も集中しました。



「ボルネオの環境保全のためにできること」トークショー
ロハスフェスタ in 万博公園

2015年4月24～26日に「第23回ロハスフェスタ in 万博公園」が「ロハスな暮らしのススメ」をテーマにEXPOパビリオンで開催されました。この中で、25日の15時より「ボルネオ環境保全のためにできること」と題して、中西宣夫(調査員)がトークショーと講演を行いました。環境省ブースにサラヤの原料供給地での取組を展示するとともに、LOHAS PHOTO GALLERYでも、パネル展示を行いました。

サラヤグループの会社概要

商品・サービスとお客様

ご家庭向け、清潔と健康のための商品

一般流通市場（薬局・薬店、スーパー、コンビニ、ホームセンター、無店舗販売など）に向け、ハッピーエレファント、ヤシノミ®洗剤、ラカントSなどご家庭用の石けん・洗剤・衛生用品や機能性食品、化粧品などの開発と製造・販売をしております。

食品衛生

食品製造・加工・流通に携わる企業（スーパー、コンビニ、ホテル、外食店、食品工場、給食供給施設など）の安全で衛生的な食品供給のための商品のご提供とお手伝いしております。

感染予防

病院、社会福祉施設、在宅介護関係、研究施設などの疾病予防や院内・施設内感染予防の商品のご提供とお手伝いしております。

働く人の健康管理

学校、官公庁、地方自治体、事業所、オフィスビル、スポーツ・アミューズメント施設などの疾病予防のための商品のご提供とお手伝いしております。また、健康保険組合などを通じて、職場のうがいや手洗いによる衛生の向上のための商品のご提供と、生活習慣病の予防や健康的なライフスタイルのお手伝いしております。

会社概要

会社名	サラヤ株式会社	東京サラヤ株式会社
創業	昭和 27 年 (1952)	
設立	昭和 34 年 (1959)	昭和 44 年 (1969)
本社所在地	〒 546-0013 大阪市東住吉区湯里 2-2-8 Tel. 06-6797-3111 (代)	〒 140-0002 東京都品川区東品川 1-25-8 Tel. 03-5461-8101 (代)
資本金	4500 万円	6000 万円

※ 創業は前身である三惠業種として創業した 1952 年、設立は三惠業種の一切の業務を引継いでサラヤ化学工業株式会社を設立した 1959 年とした。1984 年、「自然派のサラヤ」を目指し、サラヤ株式会社と社名変更した。

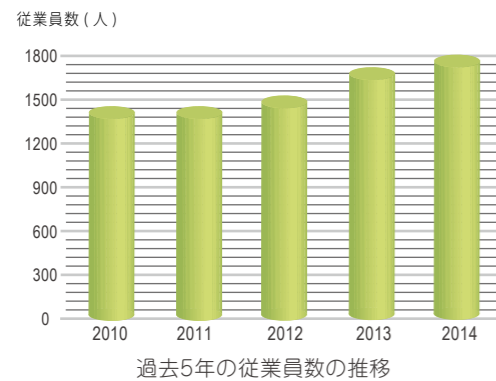
営業・生産拠点と関連会社

(2014 年 10 月現在)

営業	札幌 仙台 盛岡 北関東(さいたま) 水戸 群馬 東関東(千葉) 新潟 東京 柏 八王子 横浜 厚木 静岡 長野 名古屋 松本 京都 金沢 大阪 神戸 岡山 四国(香川) 広島 九州(福岡) 南九州(鹿児島) 沖縄
工場	大阪 伊賀 熊野 中国(東莞) タイ(チョンブリ) アメリカ(ケンタッキー) マレーシア(セランゴール) ウガンダ(カンパラ)
研究	バイオケミカル研究所 (大阪)
関連会社	スマイル産業株式会社 有限会社 熊野薬草園
海外拠点	SBest Sanitizers, Inc. Saraya Canada Co., Ltd. Saraya Australia Pty Ltd Saraya (Cambodia) Co., Ltd. Saraya (Shanghai) Biotech Co., Ltd. Saraya HongKong Co., Limited Saraya (Hong Kong Sales) Co., Limited Saraya India Private Limited Saraya Korea Co., Ltd. Saraya Hygiene Malaysia Sdn. Bhd. Saraya Goodmaid Sdn. Bhd. Saraya Taiwan Co., Ltd. Saraya International (Thailand) Co., Ltd. Saraya Greentek Co., Ltd. Hanoi Representative Office Saraya Co., Ltd. Europe Saraya CIS LLC. Saraya East Africa Co., Ltd.

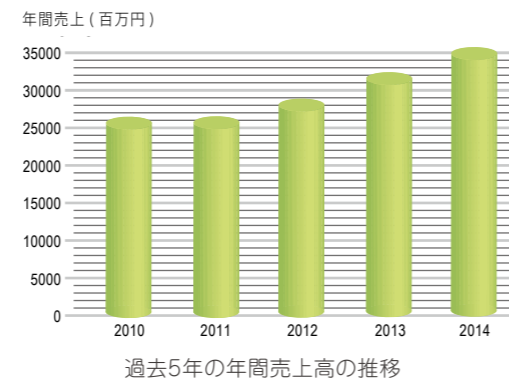
従業員数 (サラヤ株式会社・東京サラヤ株式会社・スマイル産業株式会社)

サラヤ株式会社 1,311 人 (2014 年 10 月 末現在)
3 社 1,800 人 (2014 年 10 月 末現在)



年間売上高 (サラヤ株式会社・東京サラヤ株式会社・スマイル産業株式会社)

サラヤ株式会社 303 億円 (2014 年 10 月 末現在)
3 社 356 億円 (2014 年 10 月 末現在)



編集後記

SCOPE3

NTT データ(株)さんによる SCOPE3 算定支援を受けて、2014 年度の排出量から算定しました。カテゴリごとの担当者に集まってもらって、ガイドラインなどの説明をしながら、協力をお願いをしました。明らかに仕事が増えるので、もっと厭な顔をされると覚悟していたのですが、意に反して、かなり自発的にデータを集計に協力していただきました。その背景には、やはり温暖化の実感や地球環境への危機意識があるのでしょうか、それでも、さすがはサラヤの社員だと、とても誇りに思っています。

創業者を偲んで

創業者の直感的な採用については、いくつかのエピソードがあって、21 頁に登場の代島氏が、前職でタクシー運転手をしていて創業者がそのタクシーに乗り込んだことで採用されたことが有名です。その他にも元研究所長の古田氏など何名か聞き及んでいます。私の創業者との邂逅は、秘書の面接でした。別の会社で編集の仕事をしていた頃のことです。その時になぜ秘書の仕事に応募しようと思ったのか、今から考えると運命の不思議です。当時の創業者は 70 代前半でバリバリの現役社長でした。

秘書時代に、ラカントやヤシノミステンド(ヤシノミ洗剤のリニューアル)の開発がはじまり、1 日に何度も役員や管理職を集めて、飽きずにコンセプトを話されてました。「今日は 4 回講演だったな。」などと思っていたのを思い出します。東京サラヤに出張の折には、朝礼で 1 時間ほどヤシノミステンドのデザインコンセプトを熱く語られたそうで、起立したまま話を聞くことになって、気分が悪くなった女性があったと聞きました。「さもありません」と、なぜか古文が思い浮かんだのを記憶しています。

創業者は話が特別にうまいということではなかったのですが、同じ熱心さで繰り返し何度も話されるので、気がつけば惹き込まれて、「そうだな」といつも納得させられていました。熱意は伝播するものです。人を巻き込むための、エネルギーと粘り強さ、思い込んだらひたすら突き進む情熱と意志力は並ではなかったという印象がありました。

秘書時代には、手紙の代筆からはじまって、挨拶文や式典の挨拶原稿など、創業者本人になったつもりで想像力を働かせて

持続可能性レポート 2015 Sustainability Report

発行日 2015 年 10 月
発行者 サラヤ株式会社
編集・制作 サラヤ株式会社 高橋 厚子
お問い合わせ先 サラヤ株式会社

〒 546-0013
大阪市東住吉区湯里 2-2-8
TEL. (06) 6797-3111
FAX. (06) 6700-6656

ホームページ <http://www.saraya.com/csr/report/>

文章を書くのが楽しく、いつもとても褒めてもらったので、ますますやる気満々でした。当時はワープロだったのですが、もともと美術系(版画家になるつもり)だったこともあり、余白や行間、字間を調整してレイアウトにこだわりました。これもとても気に入っていただいて、当時の専務(現社長)からも仕事が来しました。一方、日常の秘書業務は手際が良くない上、少し不熱心でした。

1 年後社内報をつくる部署に異動となって、編集の仕事をはじめました。社長室の真上の部屋で仕事をしていましたが、異動後間もなくのある日に、創業者がドアの間隙からニコニコしてこちらを伺っていたのをチラッと見掛けました。入れ違いに入ってきた人に、創業者が「おおきに。おおきに。」とつぶやきながら階段を降りて行かれたと聞きました。

それから同専務の指示でサラヤで最初に Windows を使うことになり、Pagemaker という編集ソフトでデザインもはじめました。未だに秘書を首になったのか(当然だと思います)、編集に抜擢されたのかは不明ですが、私からの働きかけはありませんでした(少なくとも意識的には)。

トップダウンの冊子づくり

2 年程社内広報をして、その後は広報冊子をトップダウンで制作していましたが、今の社長にもそれは引き継がれています。他社なら普通に広告会社に外注するところですが、トップダウンで何段階もショートカットして、基本的にトップと私の最少の 2 名で制作します。また 2 世代にわたって近くでビジネスの考え方もインプットされているし、こちらから提案していることもあるので、ストーリーテリングで表現力のあるものが出来る素地はあります。

制作中には、何度か意見がぶつかり合います。外注先なら、クライアントの指示通りに進めるしかないのですが、良いものを創りたいという意思が双方にあり、しかもどちらも頑固では引けを取らないので、折れずにぶつかり合います。しかし、ぶつかることが多いほど、出来上がったものが良いのは、当然の帰結でもあります。オーナー社長とぶつかることなど絶対に避けたいのですが、ぶつかる度に信頼も得られたように思います。このレポートについては、初版は物凄いチェックを受けましたが、今では 9 つの賞をいただいたこともあり、社長とは平和のうちに完成しています。(高橋)



表紙の写真
熱帯雨林の蜂の巣

撮影者 Rosli Jukrana
場 所 ボルネオ サバ州(マレーシア)
撮影年 2015年

Rosli Jukrana

Kopel Ltd.(エコツーリズム)の統括部長として、ゼロエミッションの民宿などをプロデュース。キナバタンガン下流域での違法伐採に立ち向かう活動家でもある。写真の腕はプロ並み。生物多様性条約第12回締約国会議サラヤ開催のサイドイベントで講演した。(p.6に詳細)



いのちをつなぐ
SARAYA

ISO 9001

ISO 14001



この印刷物に使用した用紙は、森を元気にするための関係と関係材の有効活用に役立ちます。

